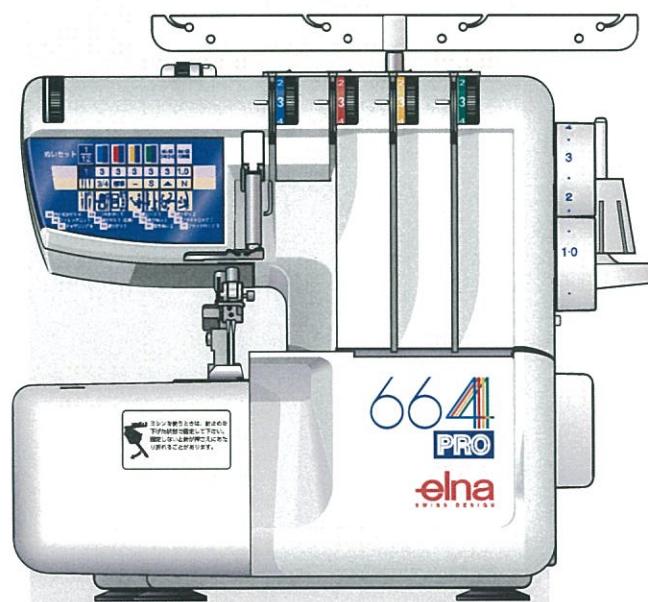


ご使用のしおり

《取扱説明書》



elna
SWISS DESIGN

安全上のご注意

- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

<u>危害・損害の程度を表わす表示</u>	警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
-----------------------	---	---

<u>本文中の図記号の意味</u>		△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
		○記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
		●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

警告 感電・火災の原因になります。	
	ストーブ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 禁 止 ミシンの使用温度は5°C~35°Cです。
	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
	一般家庭用、交流電源100Vをご使用ください。 必ず実行
	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。 必ず実行
	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 必ず電源プラグを抜く <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき

注意 感電・火災・けがの原因になります。	
	お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
	直線ぬい用針板が取り付けられている場合、および取り付けられている押さえの種類によっては、電源スイッチを切った状態ではズミ車をまわすと、針が針板や押さえにあたる場合がありますのでご注意ください。
	ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。
	プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
	針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
	電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
	以下のことを行うときは、ロックキーによりミシンをロック状態にするか、電源スイッチを切ってください。 必ず実行 <ul style="list-style-type: none"> ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・針糸、ルーパー糸をセットするとき
	ミシンのお手入れを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 <ul style="list-style-type: none"> ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

注意 感電・火災・けがの原因になります。	
	お客様自身での分解はしないでください。
	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
	ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
	曲がった針や、先のつぶれた針はご使用にならないでください。
	ミシン操作時は、ルーパーカバー、布板などカバー類を閉じてください。
	フットコントローラーの上に物をのせないでください。

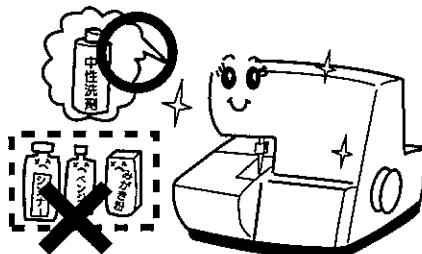
目次

おとり扱いについてのお願い	2	試しぬいをしましょう	
準備			
各部の名まえ	3	ぬい始め	32
ダストボックス	4	ぬい終わり	32
付属品ケース	4	つづけてぬうとき	32
標準付属品	4	ガイドラインの使い方	32
付属品の収納	4	ぬい始め、ぬい終わりの糸の始末	33
電源のつなぎ方	5	糸調子の出し方	
速さの調節のし方	5	(2本針4本糸ふちかがりぬい)	34
はずみ車の回転方向	6	1本針3本糸ふちかがりぬい	36
布板のあけ方、しめ方	6	糸調子の出し方	
ルーパーカバーのあけ方、しめ方	6	(1本針3本糸ふちかがりぬい)	37
押さえのあげ方、さげ方	7	1本針2本糸ふちかがりぬい	38
押さえのはずし方	7	糸調子の出し方	
押さえのつけ方	7	(1本針2本糸ふちかがりぬい)	39
押さえ圧の調節	7	巻きぬい (1本針3本糸) の糸調子	41
糸掛けスタンドの位置決め	8	ミシンのお手入れ	
糸こま押さえ、糸こまネットのつけ方	8	上メスのとりかえ方	43
装飾糸用の付属品	9	切りくずの掃除	43
早見表	9	電球のとりかえ方	44
ぬい目の種類	10	送り歯の掃除	44
ぬい目のあらさの調節	13	注油のし方	45
ぬい目の伸縮の調節	13	ミシンの持ち運び方	45
スライド糸案内	15	調子がよくないときの直し方	46
補助糸調子スライドつまみ	15		
2本糸ふちかがりぬいへの切り替え	16		
ふちかがりぬいと巻きぬいの切り替え			
(かがり爪位置の切り替え)	17		
上メスの解除ともどし方	18		
切り幅の調節	19		
糸の通し方	20		
下ルーパー糸の通し方	22		
上ルーパー糸の通し方	25		
右針糸の通し方	27		
糸通し器の使い方	29		
左針糸の通し方	30		

おとり扱いについてのお願い

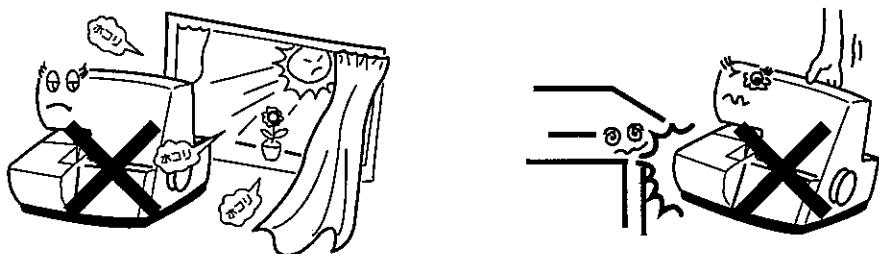
ご使用の前に

- ① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- ② シンナー、ベンジン、ミガキ粉は絶対に使用しないでください。



いつまでもご愛用いただくために…

- ① 長時間日光に当てないでください。
 - ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。
- ※ 落としたり、ぶつけるなどの衝撃を与えないでください。

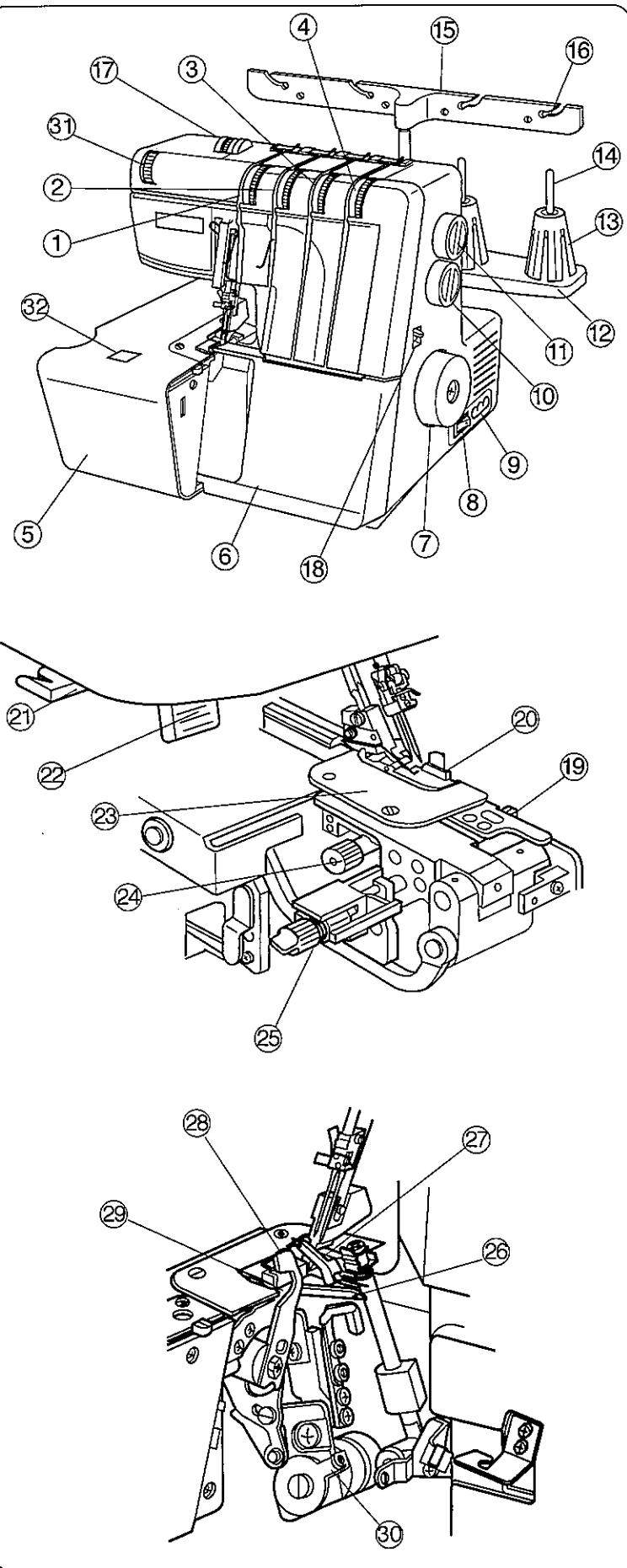


修理・調整についてのご案内

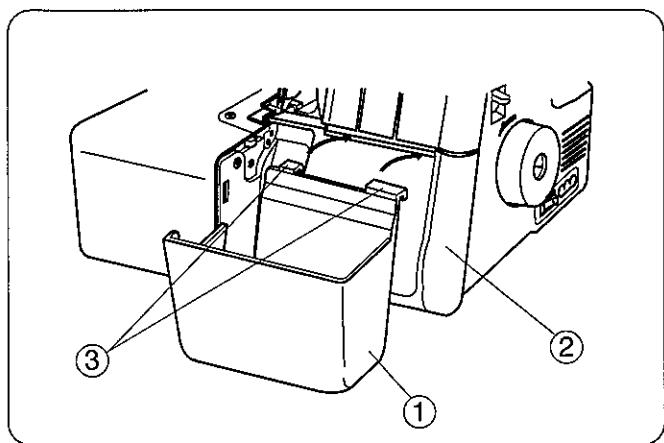
万一不調になつたり、故障を生じたときは、「調子がよくないときの直し方」(46ページ)により点検・調整を行なつてください。

準備

各部の名まえ



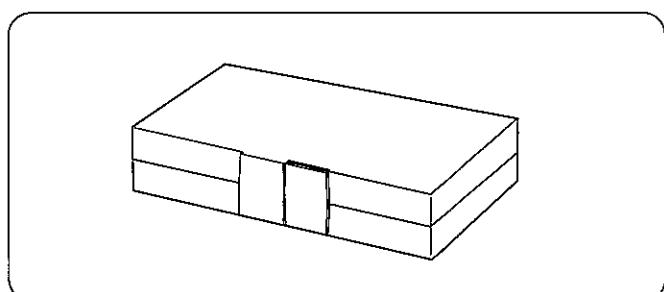
- ① 針糸調子器（左）
- ② 針糸調子器（右）
- ③ 上ルーパー糸調子器
- ④ 下ルーパー糸調子器
- ⑤ 布板
- ⑥ ルーパーカバー
- ⑦ はずみ車
- ⑧ 電源スイッチ
- ⑨ プラグ受け
- ⑩ 縫い目の伸縮調節ダイヤル
- ⑪ 縫い目のあらさ調節ダイヤル
- ⑫ 糸立て台
- ⑬ 糸こまホルダー
- ⑭ 糸立て棒
- ⑮ 糸掛けスタンド
- ⑯ 糸掛け
- ⑰ 押さえ圧調節ダイヤル
- ⑱ 補助糸調子スライドつまみ
- ⑲ かがり爪つまみ
- ⑳ 押さえ
- ㉑ 糸切り
- ㉒ 押さえ上げ
- ㉓ 針板
- ㉔ 上メスつまみ
- ㉕ 切り幅調節ダイヤル
- ㉖ 下ルーパー
- ㉗ 上ルーパー
- ㉘ 上メス
- ㉙ 下メス
- ㉚ 下ルーパー糸案内
- ㉛ ぬい目参照ダイヤル
- ㉜ 切り幅調節指示窓



ダストボックス

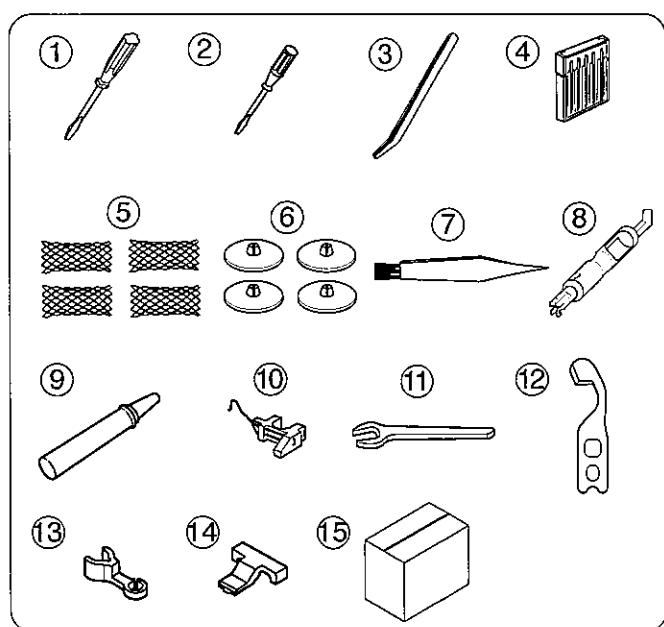
ルーパーカバーの切り欠き部にダストボックスの突起部を差し込み、布くず受けとして使用します。

- ① ダストボックス
- ② ルーパーカバー
- ③ 突起部



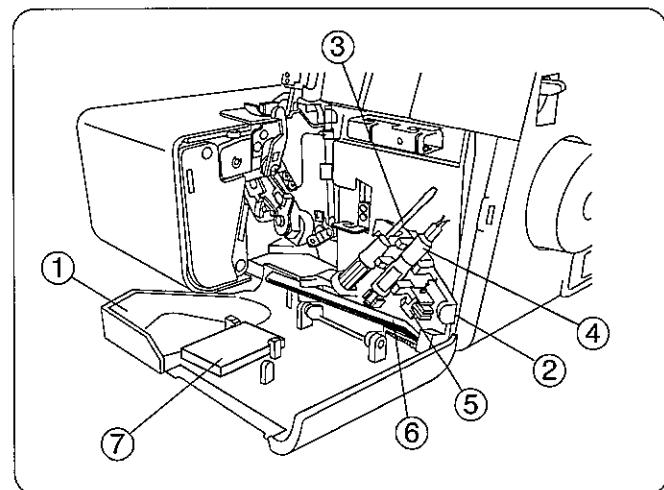
付属品ケース

付属品は付属品ケースに収納できます。



標準付属品

- ① ドライバー（大）
- ② ドライバー（小）
- ③ ピンセット
- ④ 針ケースHAX1SP11 番.14 番
- ⑤ 糸こまネット
- ⑥ 糸こま押さえ
- ⑦ ブラシ
- ⑧ 糸通し器
- ⑨ 油さし
- ⑩ スプレッダー
- ⑪ スパナー
- ⑫ 上メス
- ⑬ 糸案内
- ⑭ テンションリリースクリップ
- ⑮ ビニールカバー



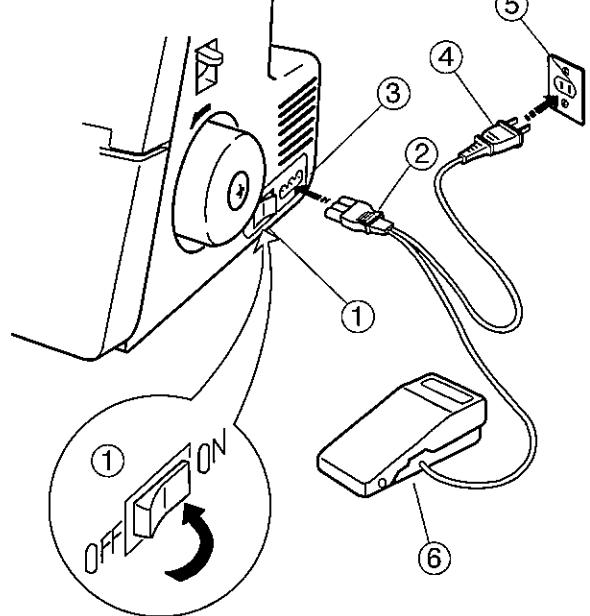
付属品の収納

ドライバーや針ケースなどはルーパーカバーの内側に収納できます。

図のように、付属品入れを引出して付属品を入れます。

- ① ルーパーカバー
- ② 付属品入れ
- ③ ドライバー（小）
- ④ 糸通し器
- ⑤ スプレッダー
- ⑥ ピンセット
- ⑦ 針ケース

電源のつなぎ方



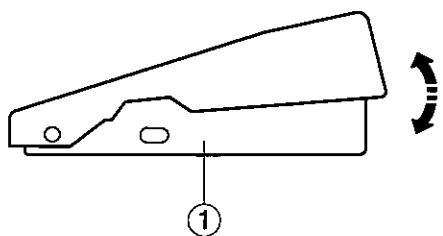
電源スイッチを「OFF」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。

電源プラグをコンセントにさしこみます。

スイッチを「ON」にします。

- ① 電源スイッチ
- ② プラグ
- ③ プラグ受け
- ④ 電源プラグ
- ⑤ コンセント
- ⑥ フットコントローラー

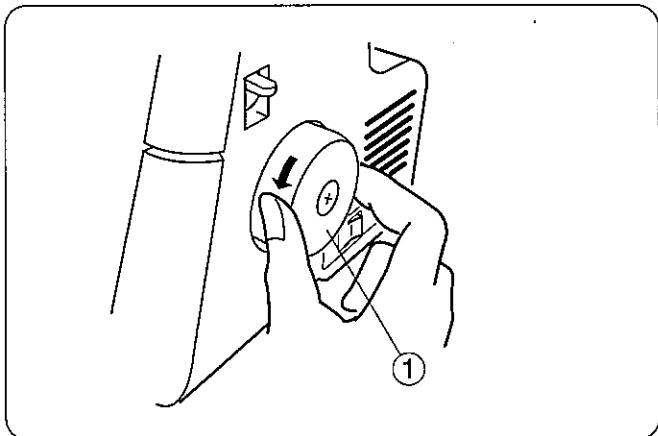
速さの調節のし方



ミシンの速さは、フットコントローラーで調節します。

※ フットコントローラーは、深く踏み込むと速くなります。

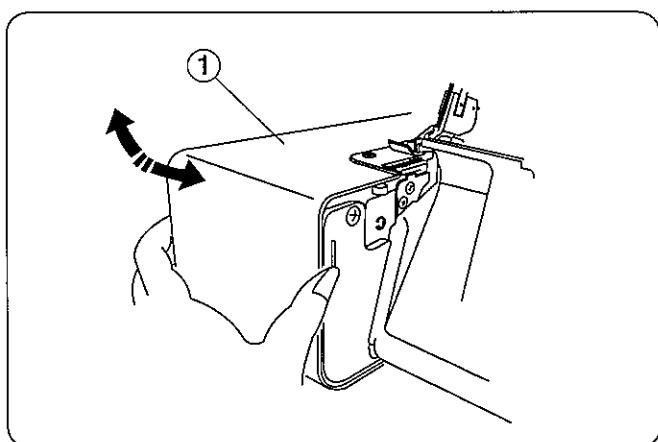
- ① フットコントローラー



はずみ車の回転方向

はずみ車は、手前にまわします。

① はずみ車



布板のあけ方、しめ方

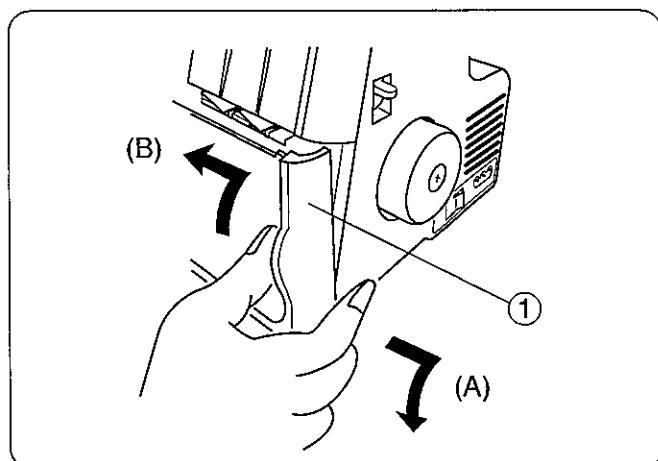
あけ方

左へ押してあけます。

しめ方

右へ押してしめます。

① 布板



ルーパーカバーのあけ方、しめ方

あけ方

右いっぱいに寄せながら、手前にひきます。 (A方向)

しめ方

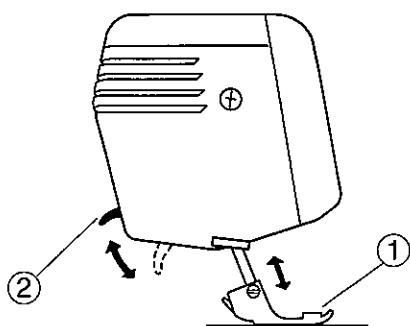
もちあげて軽く押しつけます。 (B 方向)

① ルーパーカバー

備考

ミシンを使うときは、布板とルーパーカバーをしめてください。

ルーパーカバーを開いた状態ではミシンは動きません。



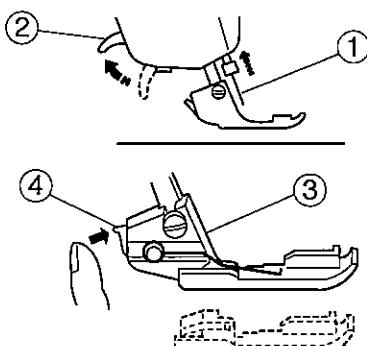
押さえのあげ方、さげ方

押さえをあげさげするときは、押さえ上げを上下に動かします。

※一般的に、糸を通しなおすとき以外は、押さえをさげたままにして使用します。

押さえ上げを上げると糸調子皿が開放されます。

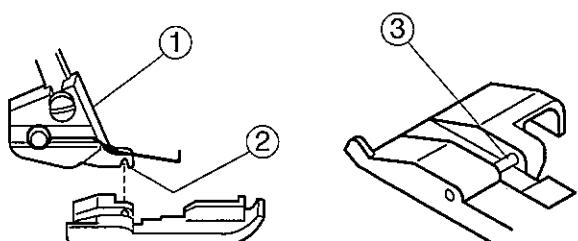
- ① 押さえ
- ② 押さえ上げ



押さえのはずし方

1. 電源スイッチを切ってください。
2. はずみ車をまわして針をあげ、押さえをあげます。
3. 押さえホルダーのレバーを押して、押さえをはずします。

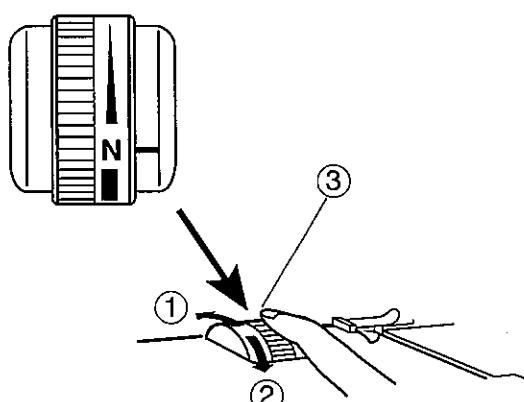
- ① 針
- ② 押さえ上げ
- ③ 押さえホルダー
- ④ レバー



押さえのつけ方

1. 電源スイッチを切ってください。
2. 押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下におきます。
3. 押さえ上げを下げます。
4. 押さえ上げをあげ、押さえが確実についていることを確認してください。

- ① 押さえホルダー
- ② みぞ
- ③ ピン



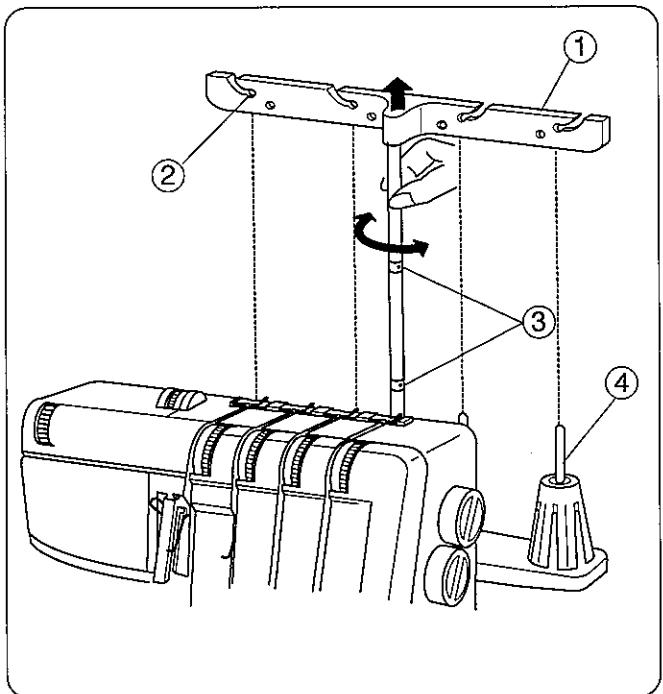
押さえ圧の調節

通常、押さえ圧を調節する必要はありませんが、極うす物、極厚もののときは押さえ圧調節ダイヤルで調節してください。

- ・ 極厚物のときは、押さえ圧調節ダイヤルを後ろ方向にまわして、押さえ圧を強めます。
- ・ 極うす物のときは、押さえ圧調節ダイヤルを前方向にまわして、押さえ圧を弱めます。

※普通ぬいでは、ダイヤルを“N”に合わせます。

- ① 強める
- ② 弱める
- ③ 押さえ圧調節ダイヤル



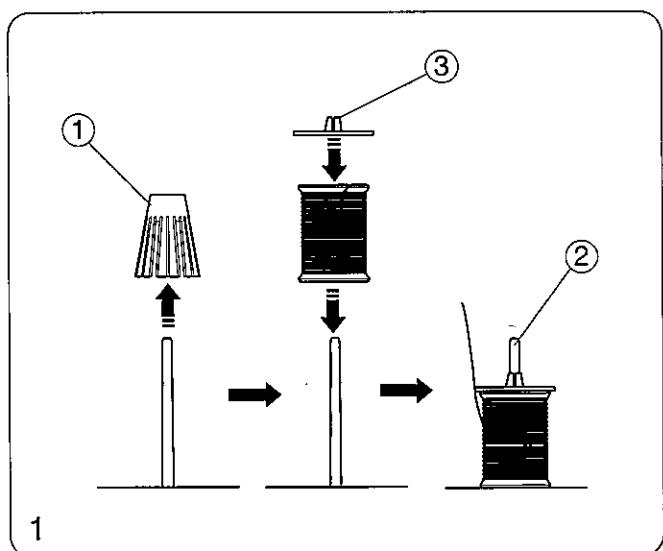
糸掛けスタンドの位置決め

糸掛けスタンドをいっぱいに伸ばします。

糸掛けが糸立て棒の真上にくるように、糸掛けスタンドを回転させて、ストッパーで位置を決めます。

- ① 糸掛けスタンド
- ② 糸掛け
- ③ ストッパー
- ④ 糸立て棒

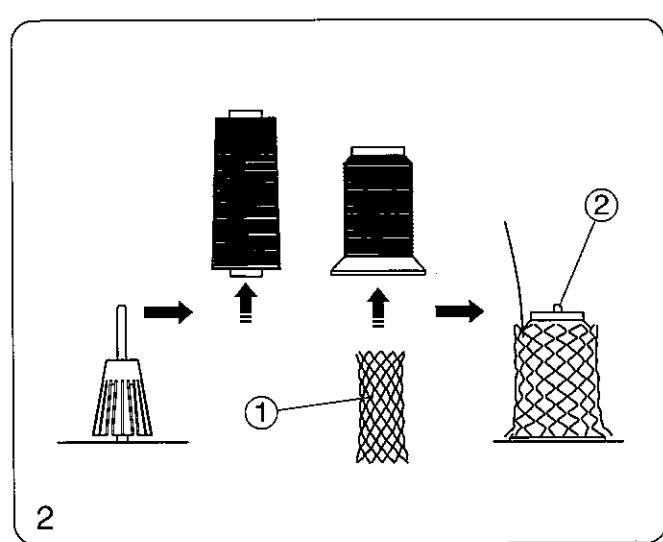
*ストッパーは図のように2ヶ所ありますので、必ず2ヶ所ともきちんと位置を決めます。



糸こま押さえ、糸こまネットのつけ方

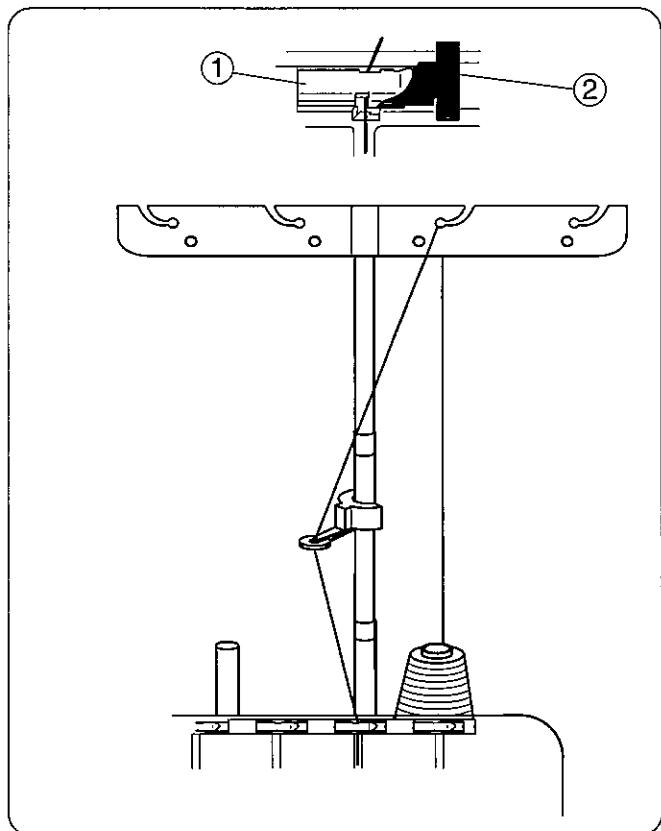
1. こま巻き糸は、糸こまホルダーをはずして糸こま押さえをはめてください。

- ① 糸こまホルダー
- ② 糸立て棒
- ③ 糸こま押さえ



2. コーン巻き糸およびチーズ巻き糸は糸こまホルダーを使います。特に化繊糸などの巻きがくずれやすい糸を使用するときは付属の糸こまネットを下の方からかぶせてご使用ください。

- ① 糸こまネット
- ② 糸立て棒



装飾糸用の付属品

ロックミシンにはさまざまな装飾糸が使われます。

ルーパーや針の穴に通る糸を使ってください。

切れやすい糸は使わないでください。

モヘア糸や均一でない糸を使うと糸掛けに引っ掛かることがあります。

テンションリリースクリップ

装飾糸を通す糸案内板にテンションリリースクリップをはさみます。

① 糸案内板

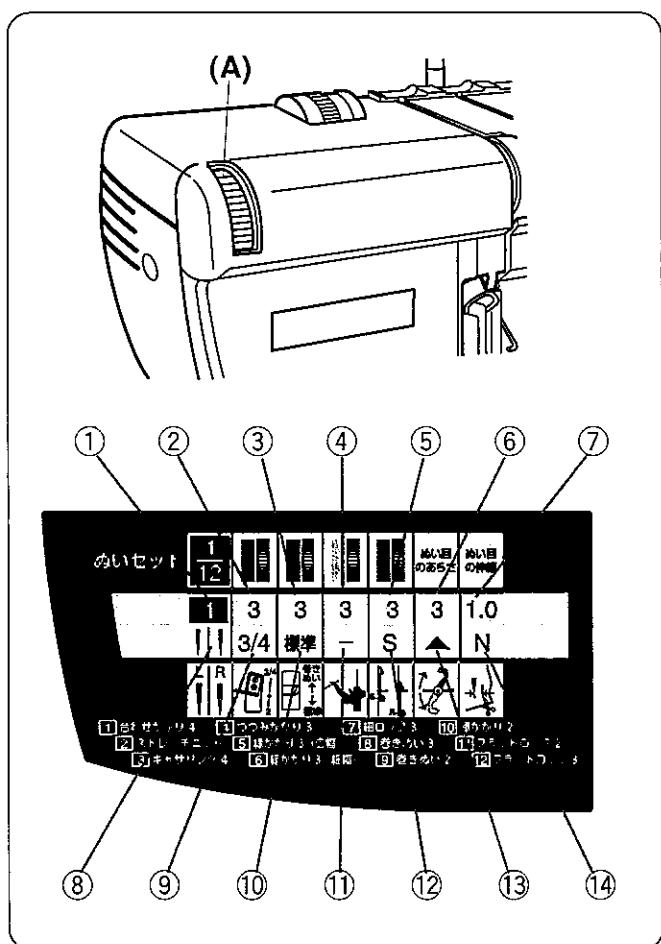
② テンションリリースクリップ

糸案内

装飾糸はからみやすいので、図のように糸案内を糸掛けスタンドにつけて上ルーパー糸を通します。

重要

装飾糸を使うときは、ぬい目が一様になるように一定の低速でぬいいます。



早見表

早見表には12種類のぬい目の標準的な糸調子とぬいセットが表示されています。

ぬい目参照ダイヤルをまわしてお好みのぬい目を選ぶと窓に表示されます。

(A) ぬい目参照ダイヤル

① ぬい目番号

② 左針糸調子

③ 右針糸調子

④ 上ルーパー糸調子

⑤ 下ルーパー糸調子

⑥ ぬい目のあらさ

⑦ ぬい目の伸縮

⑧ 使用針

⑨ スライド糸案内

⑩ 補助糸調子スライドつまみ

⑪ スプレッダー

⑫ かがり爪つまみ

⑬ 上メス

⑭ 切り幅

ぬい目の種類

① 合わせかがり4

2本の針と上下のルーパーを使用する4本糸の合わせかがりです。

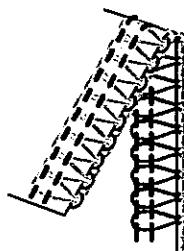
糸が切れずに伸縮することができます。

2本目の針糸がぬい目の耐久性を増しますが、伸縮性は残っています。

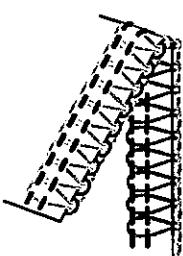
実用例

- ニット地に優れています。
- ゆるく織られた布に適しています。

1 12	3	3	3	3	3	3	1.0
1 3/4	標準	—	S	▲	N		
L R	8	10	12	14	16	18	
	1	2	3	4	5	6	



1 12	3	3	3	3	3	3	1.5 2.0
2 3/4	標準	—	S	▲	N		
L R	9	11	13	15	17	19	
	1	2	3	4	5	6	



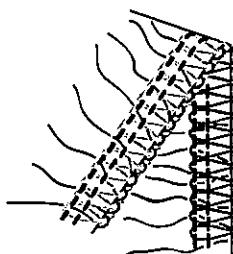
② ストレッヂニット

合わせかがり4 と同様ですが、ぬい目の伸縮を調節しているので、ニット地のぬい伸びを防ぐことができます。

実用例

- ニット地のえりやそで、すそにゴムテープをつける。
- ニットセーターのぬい合わせ。

1 12	3	3	3	3	3	4	1.5 2.25
3 3/4	標準	—	S	▲	N		
L R	10	12	14	16	18	20	
	1	2	3	4	5	6	



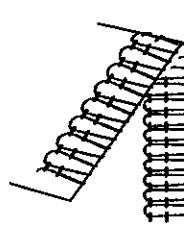
③ ギャザリング4

合わせかがり4 と同様ですが、ぬい目の伸縮を調節して針糸調子を強めているので、均一なギャザーがよせられます。うす物から中厚物に最適です。

実用例

- フレアスカート
- インテリア小物

1 12	4	3	—	2	3	1.0
4 3/4	標準	—	S	▲	N	
L R	11	13	15	17	19	
	1	2	3	4	5	



④ つつみかがり3

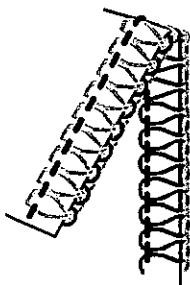
つつみかがり3 は2本の針と下ルーパーを使った、最も伸縮性のあるぬい目です。

2本目の針糸がぬい目の耐久性を増します。

実用例

- スポーツウェアーやスイムウェアのぬい合わせ。

1	12												めい目 のあらさ	めい目 の押織
5	3	—	3	3	3	3	1.0							
1	3/4	標準	—	S	▲	N								
L	R													



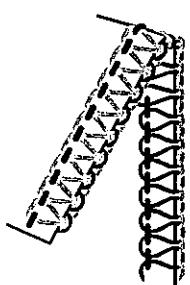
⑤ 縁かがり3（広幅）

3本の糸が布端で交差するバランスのとれたぬい目です。
中厚物から厚物に適した縁かがりです。

実用例

- ニット地のぬい合わせ。
- 一枚布の端のしまつ。

1	12												めい目 のあらさ	めい目 の押織
6	—	3	3	3	3	3	1.0							
1	3/4	標準	—	S	▲	N								
L	R													



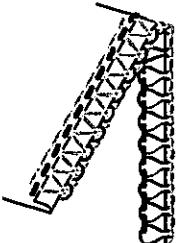
⑥ 縁かがり3（細幅）

縁かがり3（広幅）と同様。より細いふちかがりなので
うす物から中厚物に適しています。

実用例

- ランジェリーのぬい合わせ。
- 一枚布の端のしまつ。

1	12												めい目 のあらさ	めい目 の押織
7	—	4	3	3	R	1.0								
1	3/4	標準	—	R	▲	N								
L	R													



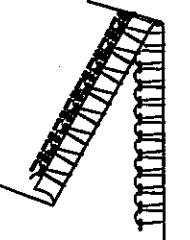
⑦ 細ロック3

バランスのとれた3本糸のぬい目で、細い布端のしまつに
最適です。

実用例

- スカーフやナプキン、ひだの縁かがり。
- うすいニット地のランジェリーのぬい合わせ。

1	12												めい目 のあらさ	めい目 の押織
8	—	4	3	3	R	1.0								
1	3/4	標準	—	R	▲	N								
L	R													



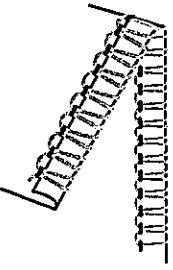
⑧ 巻きぬい3

バランスのとれた3本糸のぬい目。
縫うときに、布がぬい目の内側に巻きこまれます。

実用例

- うす物から中厚物の縁かがり。
- ピンタック装飾ぬい。

1	12								ぬい目 のあらさ	ぬい目 の伸び
9	-	3	-	3	R	1.0	N			
11	2	巻き ぬい		R	▲					



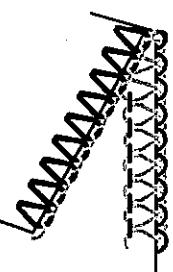
⑨ 巻きぬい2

針糸と下ルーパー糸が布端をロールさせながら包みます。

実用例

- 糸が2本なので、巻きぬい3 より軽いしあがりになります。シフォンやウェディングドレスのベルのようなうす物にできています。

1	12								ぬい目 のあらさ	ぬい目 の伸び
10	4	-	-	3	2~3	1.0	N			
11	2	巻き ぬい		S	▲					



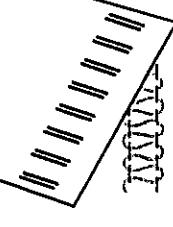
⑩ 縁かがり2

針糸と下ルーパーのぬい目は軽いしあがりで、布端が厚くならない。

実用例

- 合わせのぬい端を割る、うす地の布端しまつ。

1	12								ぬい目 のあらさ	ぬい目 の伸び
11	2	-	-	4	2~3	1.0	N			
11	2	巻き ぬい		S	▲					



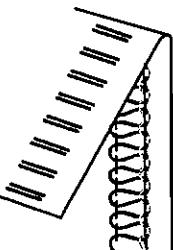
⑪ フラットロック2

針糸と下ルーパー糸のぬい目は平らに押しひらくことができます。

実用例

- 下着のぬい合わせ。
- 応用縁かがり

1	12								ぬい目 のあらさ	ぬい目 の伸び
12	1	-	4	4	2~3	1.0	N			
11	3/4	標準	-	S	▲					



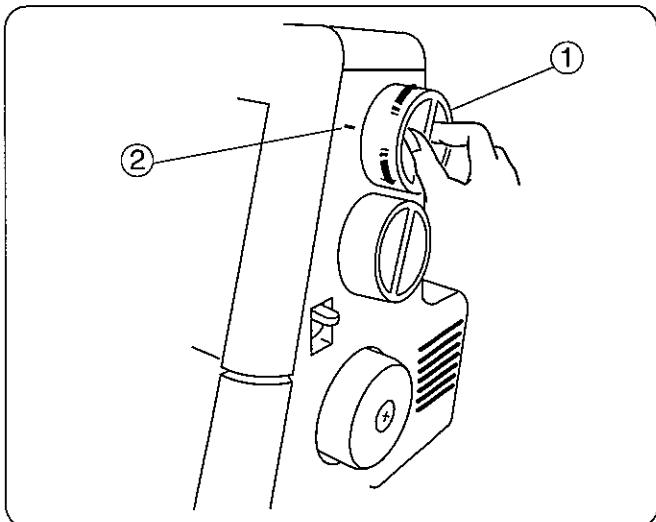
⑫ フラットロック3

3本のぬい目は一方によっていて、平らに押しひらくことができます。

既製服のトレーナーやニットのスポーツウェアの飾りぬいに似ています。

実用例

- かさばるニットウェアのぬい合わせ。
- 装飾ぬい。



ぬい目のあらさの調節

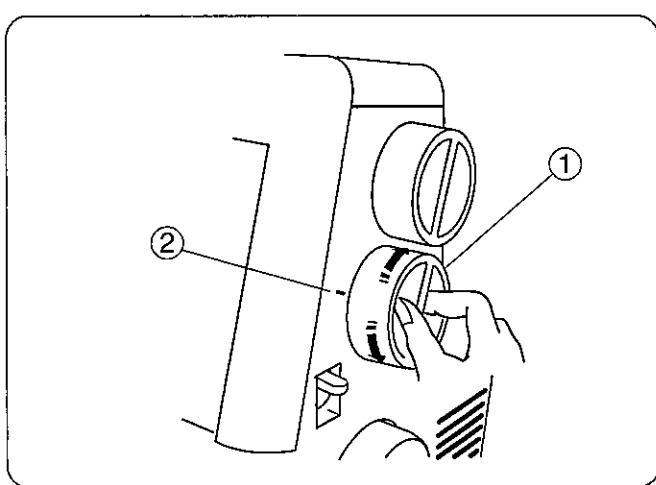
縫い目のあらさ調節ダイヤルで、ぬいの種類に応じたぬい目のあらさを選ぶことができます。

縫い目のあらさ調節ダイヤルをまわして、目盛を指示線に合わせます。

ぬい目のあらさは、最小1mm から最大5mm まで調節できます。

目盛「R」は、巻きぬい又は細ロックぬいをするときのぬい目のあらさで、約1.5mmです。

- ① 縫い目のあらさ調節ダイヤル
- ② 指示線



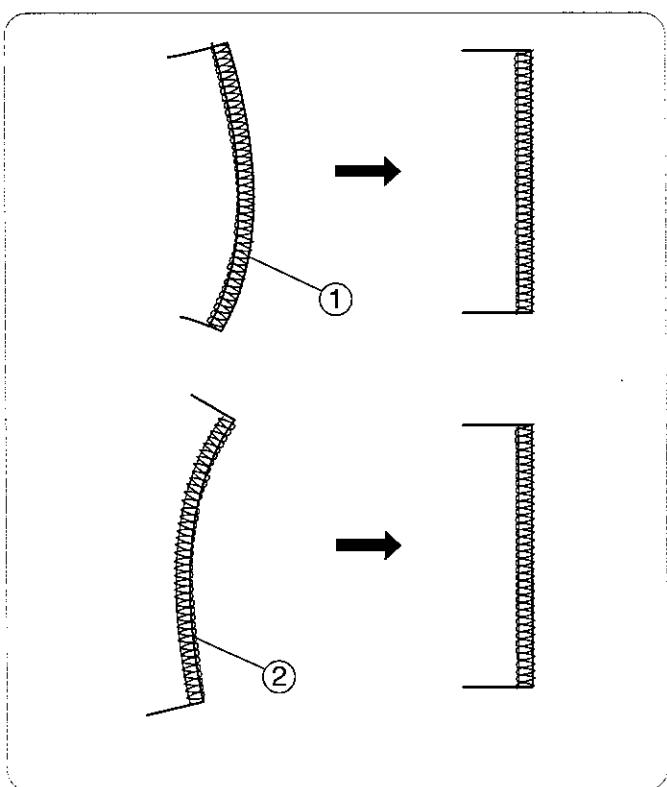
ぬい目の伸縮の調節

縫い目の伸縮目盛「1.0」は伸縮比1.0を表し、縫い目の伸縮のかかっていない状態です。

(伸縮比は差動比とも呼ばれます。)

ダイヤルをまわしてクリック感の大きい位置が標準の1.0の位置です。

- ① 縫い目の伸縮調節ダイヤル
- ② 指示線



調節のし方

- ・縫い目の伸縮調節ダイヤルを手前側へまわし「2.2」の方へ大きくするに従い、ぬい伸び防止の効果が高まります。

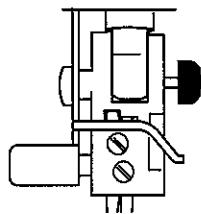
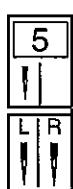
- ・縫い目の伸縮調節ダイヤルを向こう側へまわし「0.5」の方へ小さくするに従い、ぬい縮み防止の効果が高まります。

- ① ぬい伸びする布
- ② ぬい縮みする布

※ 縫い目のあらさ調節ダイヤルを1mmから4mmに合わせたときの最大伸縮比は2.25です。

※ 縫い目のあらさ調節ダイヤルを4mmより大きくすると最大伸縮比は自動的に制限されます。

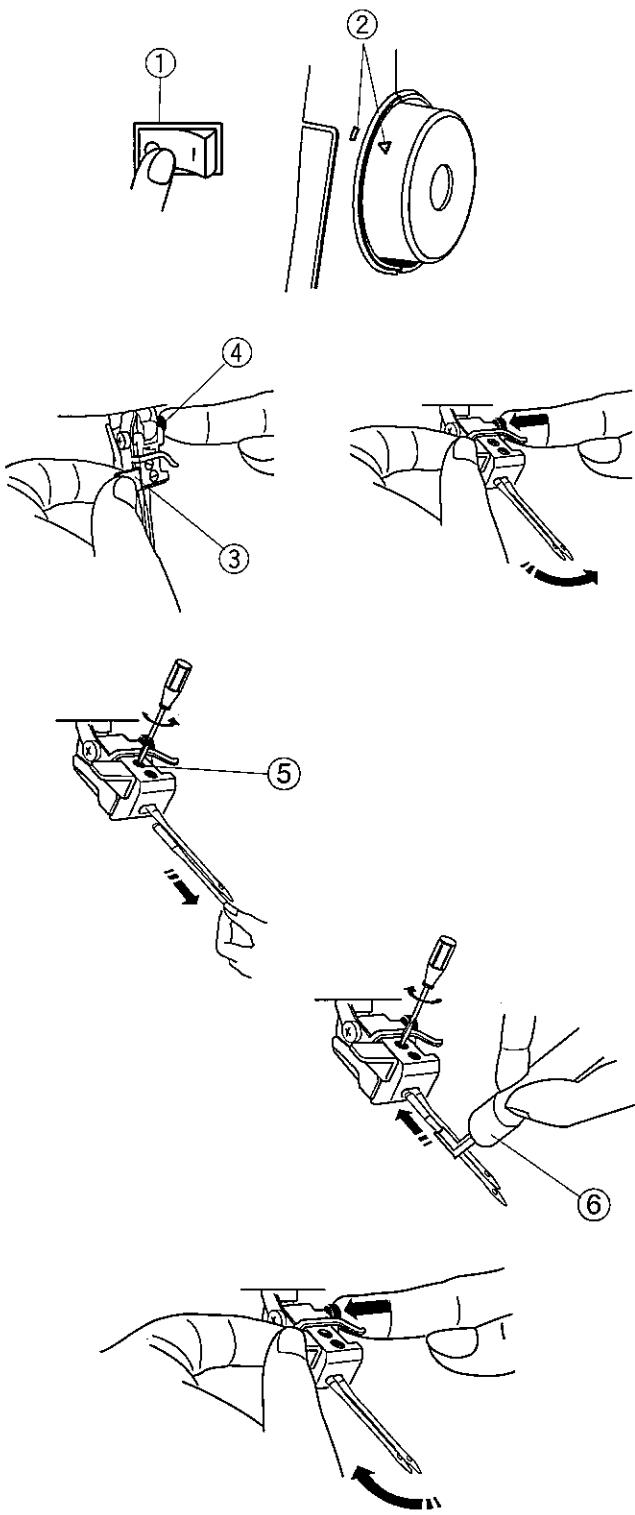
(ぬい目のあらさが5mmのときは最大伸縮比は、約1.8に制限されます。)



針位置

それぞれのぬい目に使う針は針位置マークの上に表示されています。

使わない針ははずします。



針止めの傾け方

針止めを傾けると針の交換と糸通しがより簡単です。

重要

針をはずすときとつけるときは下記を守ってください。

- 電源スイッチ①を切ります。
- はずみ車を手前にまわし、指示線②を合わせます。
- 押さえを下げます。

ボタンをおしたままで、つまみを持って針止めをあげます。

- ③ つまみ
- ④ ボタン

注意

針止めがあがっているときははずみ車をまわさないでください。

針のはずし方

針止めねじをドライバーでゆるめます。

針を下にひきます。

針止めねじは、はずれないように様にかかるくしめておきます。

- ⑤ 針止めねじ

針のつけ方

使用する針側の止めねじをゆるめます。

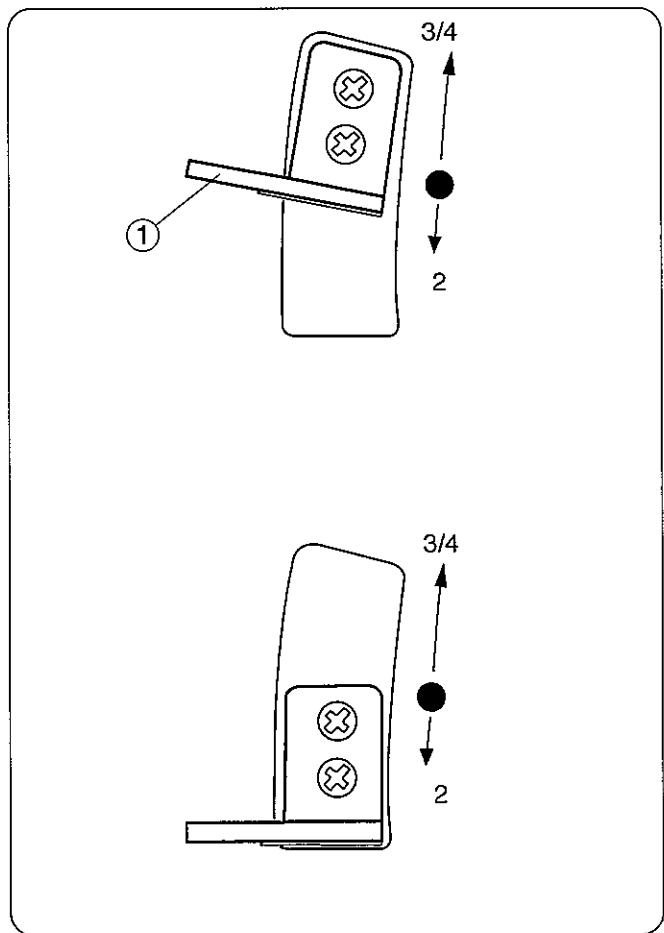
針の平らな面を向こう側に向けて、糸通し器に差し込み、奥いっぱいに突きあたるまでさしこみ、針止めねじをかたくしめます。

- ⑥ 糸通し器

針止めの戻し方

ボタンをおしたままで、つまみを持って針止めをさげます。針止めが元の位置に戻ったらボタンをはなします。

はずみ車をゆっくりまわし、針が押さえと針板に当たらないことを確認します。

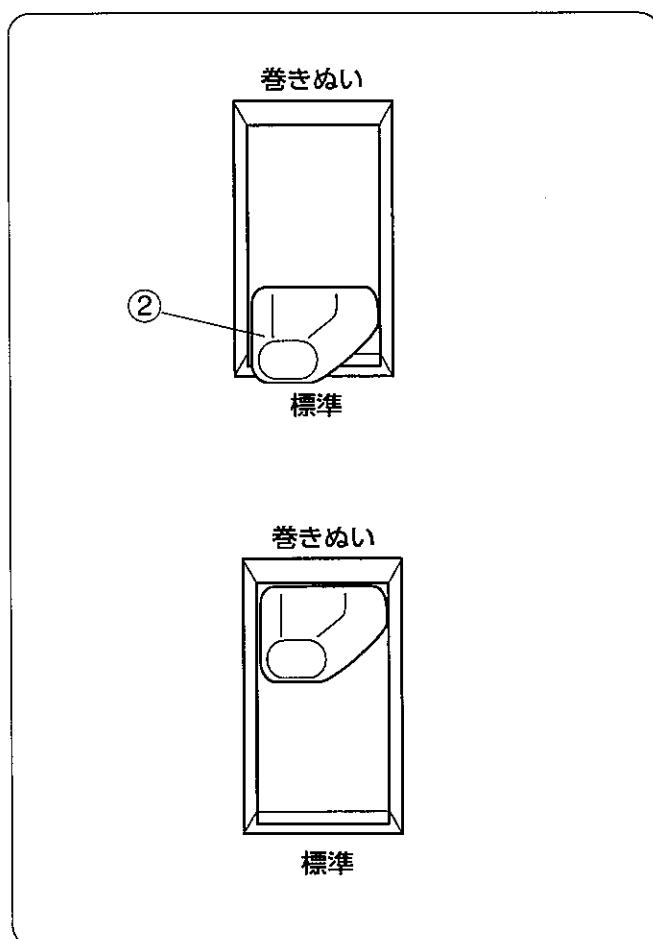


スライド糸案内

3本または4本糸でのぬい

3本または4本糸でぬう場合はスライド糸案内を上にあげます。

① スライド糸案内



補助糸調子スライドつまみ

標準のぬい

2、3、4本糸の縁かがりをぬうときはつまみを下にさげます。

② 補助糸調子スライドつまみ

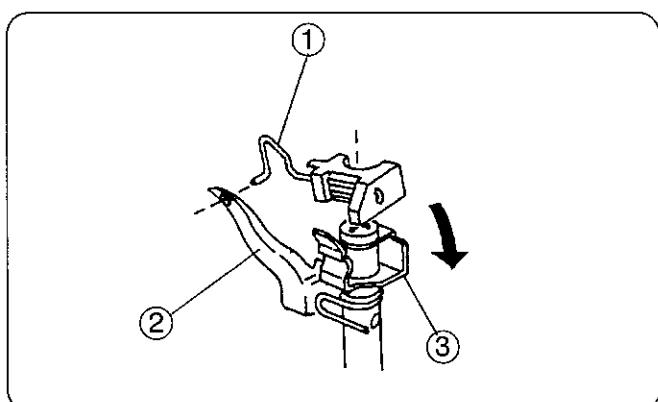
巻きぬい

2、3本糸の巻きぬいをぬうときにはつまみを上にあげます。

2本糸ふちかがりぬいへの切り替え

2本糸ぬいでは付属のスプレッダーを使います。

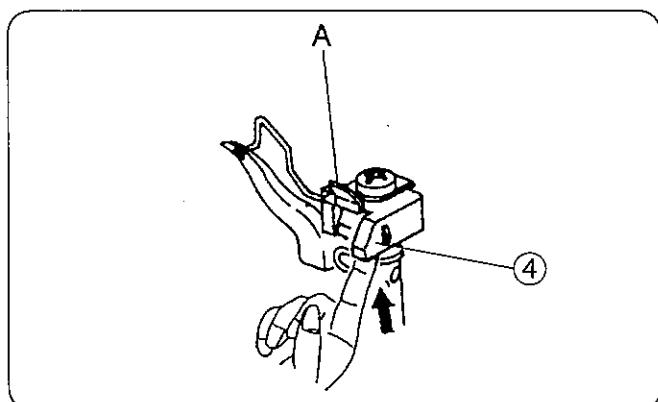
※ 2本糸ふちかがりぬいでは左右いずれかの針糸と
下ルーパー糸を使います。ほかの糸ははずします。



スプレッダーのつけ方

上ルーパーの穴に、スプレッダーの先端を後方から入れ、スプレッダーをホルダーに差し込みます。

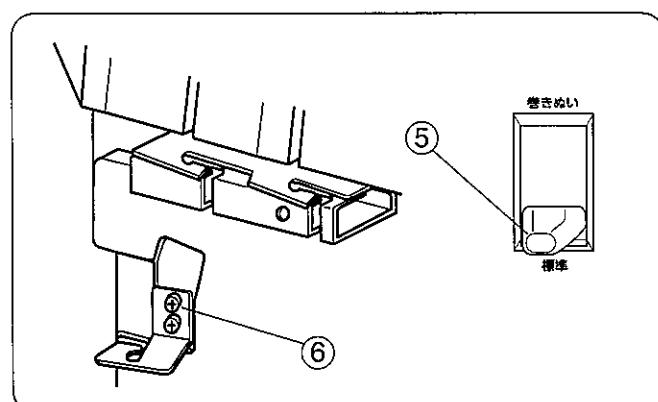
- ①スプレッダー
- ②上ルーパー
- ③ホルダー



スプレッダーのはずし方

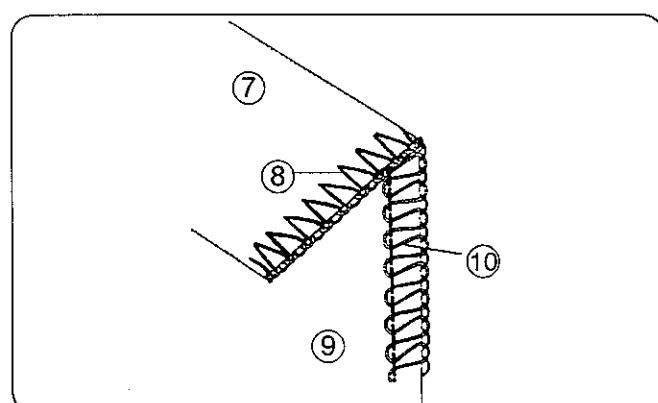
ホルダーのばねA部を、手前に軽く引きながらスプレッダーの突起を押し上げて抜き取ります。

- ④スプレッダーの突起



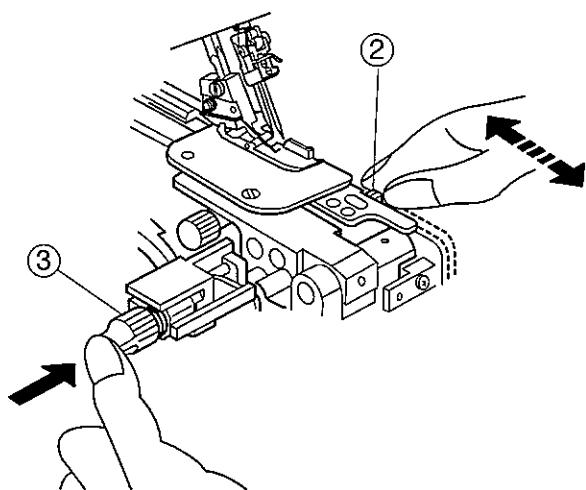
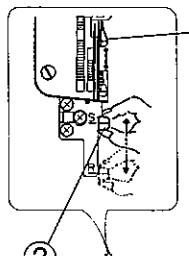
2本糸ふちかがりぬいは、補助糸調子スライドつまみを「標準」側に、スライド糸案内を「2本」側にあわせます。

- ⑤補助糸調子スライドつまみ：標準
- ⑥スライド糸案内：2



標準的な2本糸ふちかがりぬいは図の通りです。

- ⑦布の裏
- ⑧針糸
- ⑨布の表
- ⑩下ルーパー糸



ふちかがりぬいと巻きぬいの切り替え（かがり爪位置の切り替え）

かがり爪つまみはかがり爪につながっています。
かがり爪位置はSとRがあり、ぬい目の種類に合わせて切り替えます。

1. 電源スイッチを切ってください。
2. ルーパーカバーと布板をひらきます。
上メスを解除します。（18 ページ参照）
3. 切り幅調節ダイヤルを右いっぱいに押しながら、かがり爪つまみをS側（普通のふちかがりぬい）またはR側（巻きぬい）へ移動します。
切り幅調節ダイヤルは手をそっとはなせば、元にもどります。
4. 上メスをもどします。（18 ページ参照）
ルーパーカバーと布板をしめます。

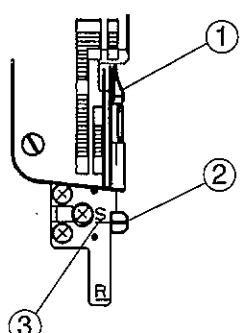
- ① かがり爪
- ② かがり爪つまみ
- ③ 切り幅調節ダイヤル

(A) 普通のふちかがりぬい

※ 普通のふちかがりぬいでは布ふちでかがり糸を支えるため、(A) のようにかがり爪を針板の側面に位置させます。

- ① かがり爪
- ② かがり爪つまみ
- ③ 指示線S

(A)

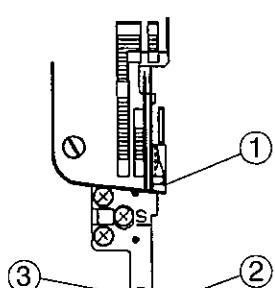


(B) 巻きぬい（ピコぬい、細ロックぬい）

※ 巻きぬい、ピコぬい、細ロックぬいでは布ふちをまきこみますから、かがり爪は不要となり、(B) のように針板の下側に引き込んでおきます。

- ① かがり爪
- ② かがり爪つまみ
- ③ 指示線R

(B)



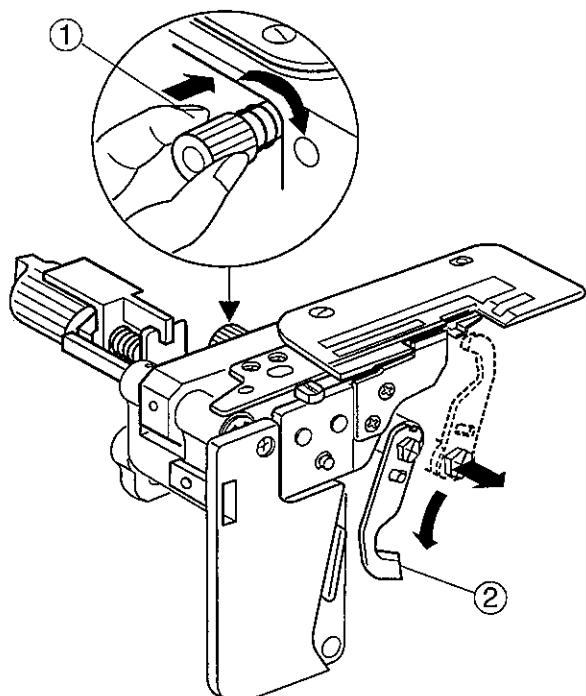
上メスの解除ともどし方

解除のし方

1. 電源スイッチを切ってください。
2. ルーパーカバーと布板をひらきます。
3. 上メスつまみを右に押しながら、案内みぞにそってストッパーに当たるまでさげます。
4. はずみ車をまわして、上メスの解除を確認します。
5. ルーパーカバーと布板をしめます。

① 上メスつまみ

② 上メス

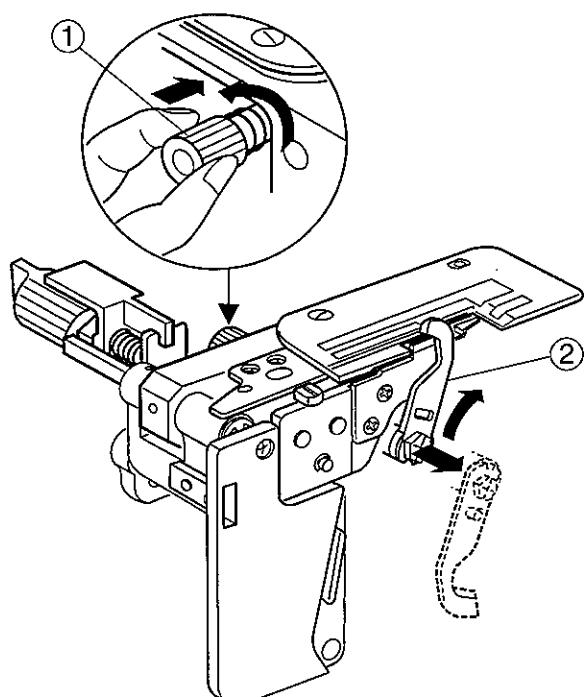


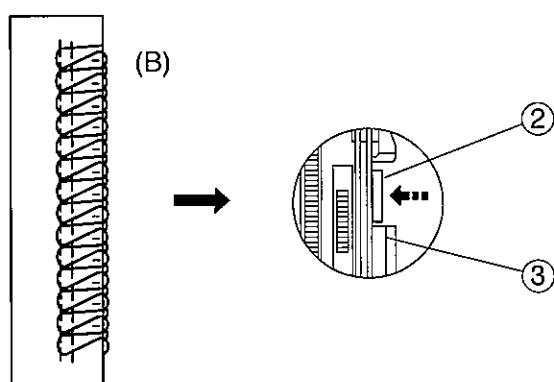
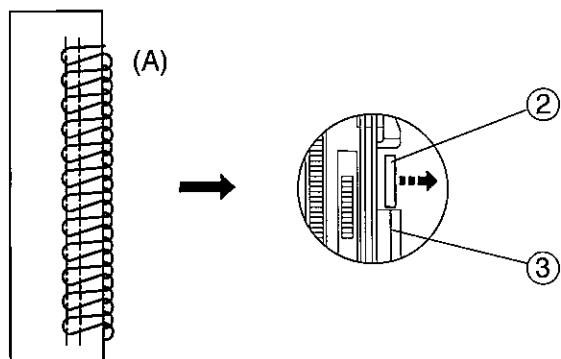
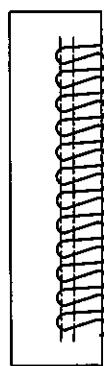
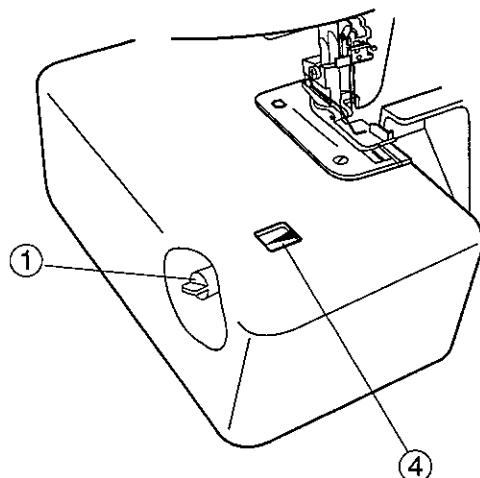
もどし方

1. 電源スイッチを切ってください。
2. ルーパーカバーと布板をひらきます。
3. 上メスつまみを右に押しながら、案内みぞにそってストッパーに当たるまであげます。
4. はずみ車をまわして、上メスの動きを確認します。
5. ルーパーカバーと布板をしめます。

① 上メスつまみ

② 上メス





切り幅の調節

布ふちとぬい目が合っていないときは、切り幅を調節します。

切り幅の調節は次のように操作します。

※ このミシンは、右針から約3mm から5mm 幅まで切り幅を調節できますが、使用する布に合わせて調節してください。

- ① 切り幅調節ダイヤル
- ② 下メス
- ③ 針板ガイドライン

備考

ぬい幅を広くしやすいように上下メスの標準位置は、下メスの右側面と針板のガイドラインが一致する位置で、切り幅調節ダイヤルは“N”に合わせられています。

- ④ 切り幅調節指示窓

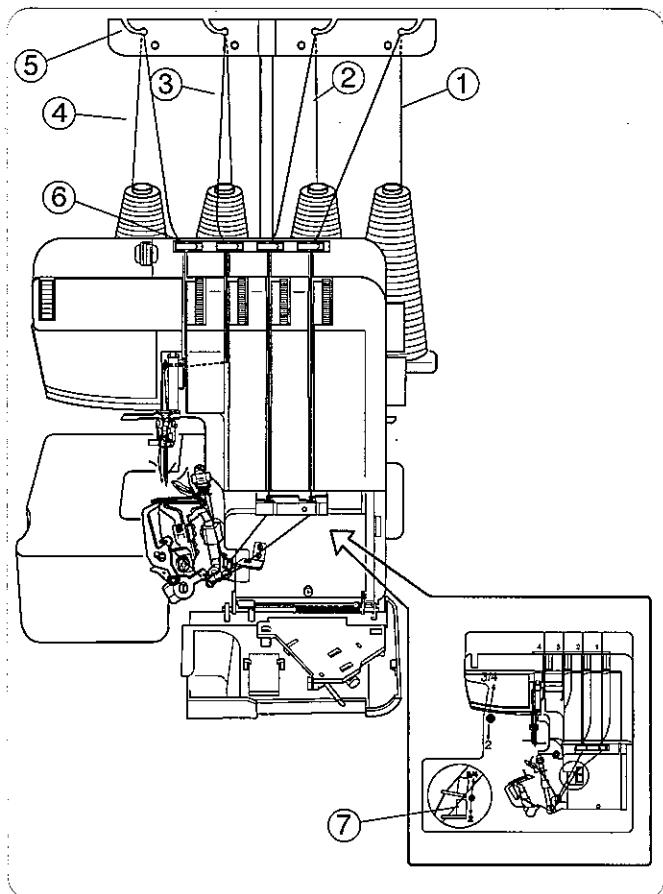
(A) 切り幅がせますぎる場合

切り幅調節ダイヤルを手前に回します。
下メスが右に移動します。

(B) 切り幅が広すぎる場合

切り幅調節ダイヤルを向こうに回します。
下メスが左に移動します。

試しひいをして、切り幅を確認します。

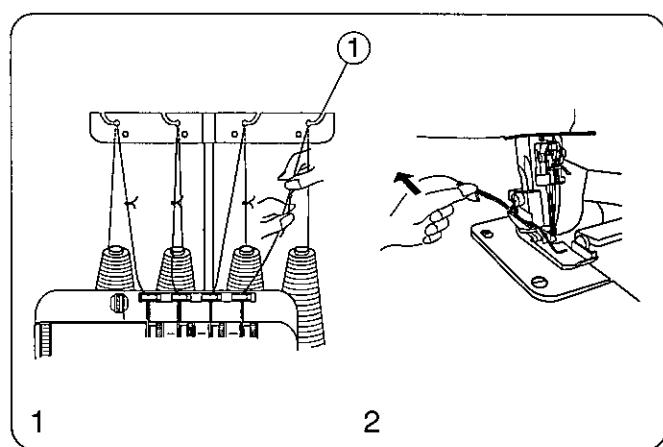


糸の通し方

左の図は4本の糸を通し終わった状態です。

- ① 下ルーパー糸
- ② 上ルーパー糸
- ③ 右針糸
- ④ 左針糸
- ⑤ 糸掛け
- ⑥ 糸案内板
- ⑦ 糸道案内図

ミシンには、あらかじめ糸がセットしてあります。ご使用になる糸に交換するときは、次のようにすると、容易に糸が通せます。



※ 電源スイッチを切ってください。

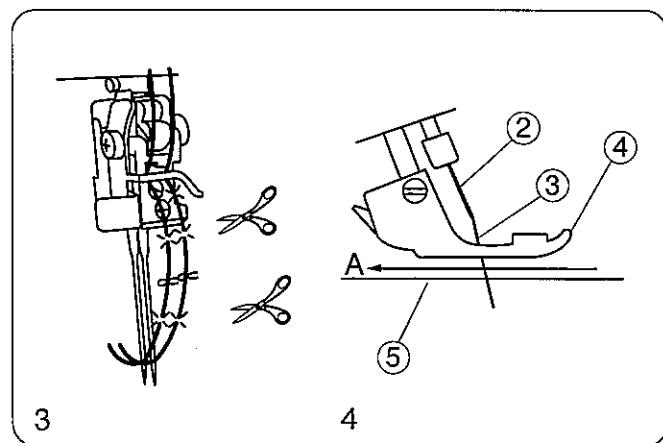
1. 糸こまから引き出した糸を糸掛けスタンドの糸掛けに通してから、あらかじめミシンにセットしてある糸と結んでください。
2. 押さえ上げをあげ、結び目を押さえの下から向こう側へ出るまで引き出します。
3. ただし、針糸を引き出すときは、結び目を針穴の手前で止め、結び目を切ってから針穴に通します。
4. ぬい始める前に、押さえの下で針糸をA方向に引き出し、押さえの後ろへ10cmほど各糸を引き出します。

押さえをおろして糸通しは終了です。

- ① 糸掛け
- ② 針
- ③ 針糸
- ④ 押さえ
- ⑤ 針板

※ 糸を通しなおすときは、下ルーパー、上ルーパー、右針、左針の順で糸を通します。

針糸は針板の下からとりだして、押さえの後ろへ10cmほど引き出しておきます。

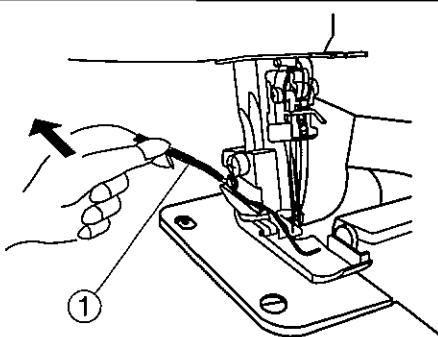


※ 電源スイッチを切ってください。

1. 押さえをあげ、切れてない残りのからみ合った糸を押さえの後ろまで引き出して切り、糸どうしがからまつていらない状態にします。

①からみ合った糸を切る

1

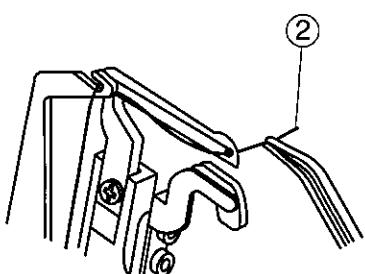


2. 切れた糸を通し直します。

(たとえば、下ルーパー糸を通し直します。)

②下ルーパー糸

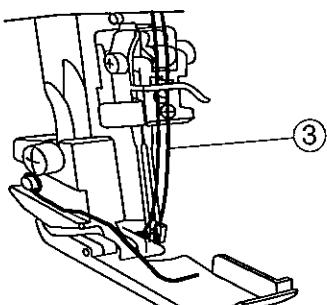
2



3. はずみ車を手前にまわし、針を上いっぱいまであげます。

③針糸

3



4. 最後に押さえの下で針糸をA方向に引き出し、針糸が針板の下にないことを確認してから押さえの後ろへ10cmほど各糸を引き出しておけば糸通しは終了です。

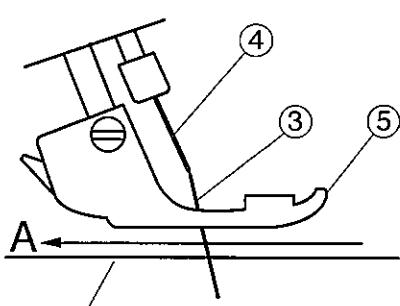
③針糸

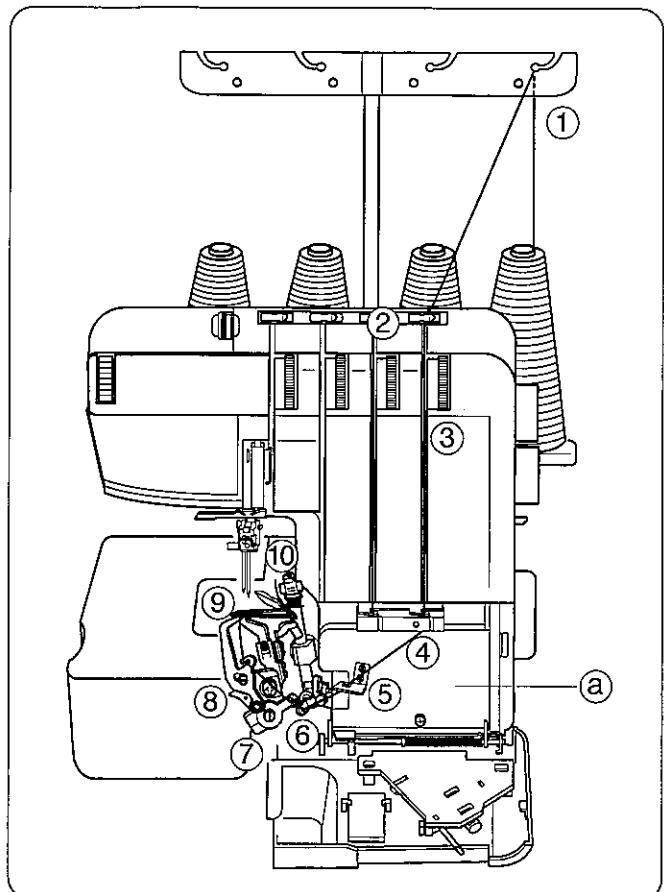
④針

⑤押さえ

⑥針板

4





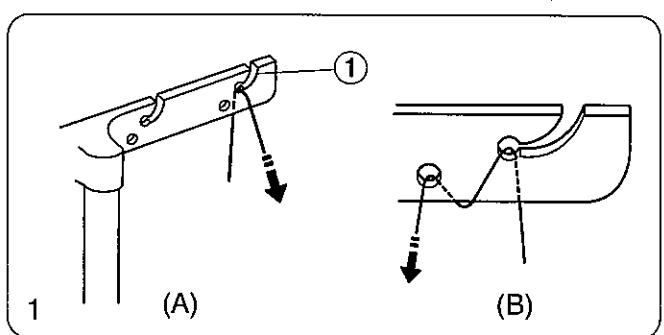
下ルーパー糸の通し方

ルーパーカバーをひらきます。

糸こまを右の糸立て棒にはめます。

※ 緑色マークの糸道を通してください。

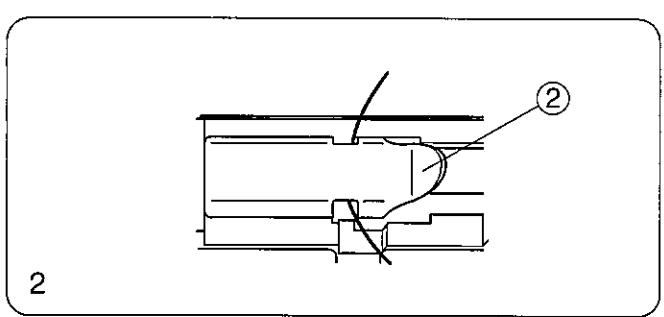
※ 糸道案内図は、ルーパーカバーをあけると左図の位置(a)にあります。



1. 糸こまから引き出した糸を、右側の糸掛けに掛けます。

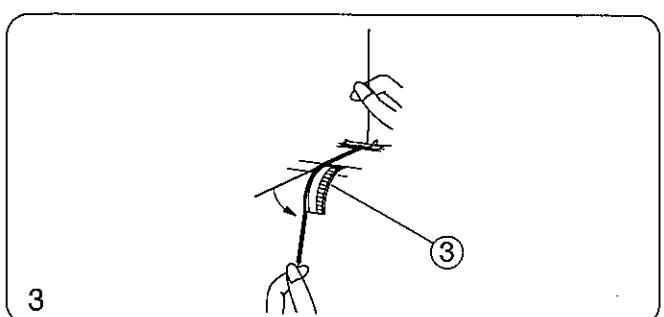
※ 通常は(A)のように糸を掛けますが、糸掛けから外れやすい糸は(B)のように穴にもう一度通します。

① 糸掛け



2. 糸掛けスタンドの糸掛けに糸を通したら、図のように糸案内板に入れます。

② 糸案内板

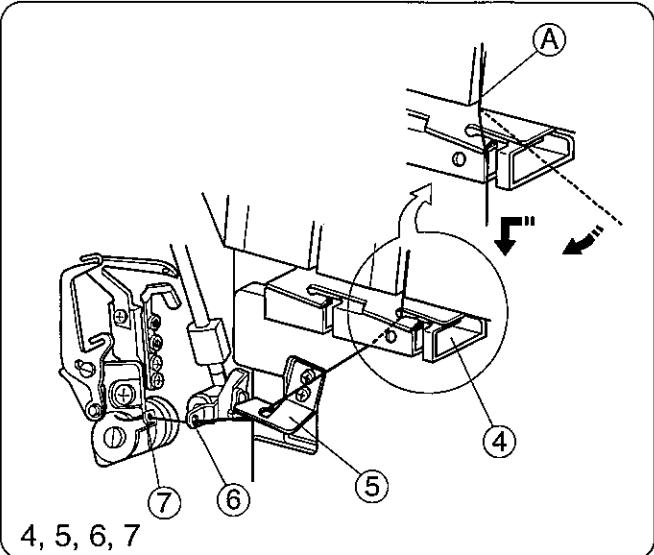


3. 溝にそって糸を引き、下ルーパー糸調子器に糸を通します。

糸の両端をもって軽くしごき、糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。

(押さえ上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。)

③ 下ルーパー糸調子器



4. 糸を正面カバーの角部Ⓐ、糸ガイド先端の順に案内し、ルーパー糸案内の右側溝に通します。

5. スライド糸案内に糸を通します。

6. ルーパー天秤（下）に糸を通します。

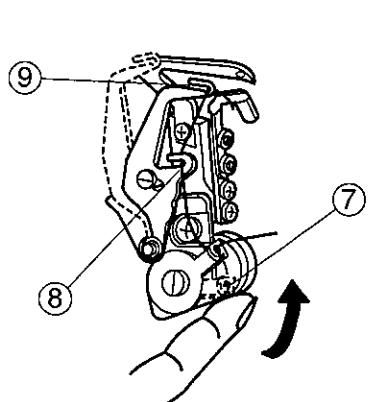
7. 下ルーパー糸案内（1）に糸を通します。

④ ルーパー糸案内

⑤ スライド糸案内

⑥ ルーパー天秤（下）

⑦ 下ルーパー糸案内(1)



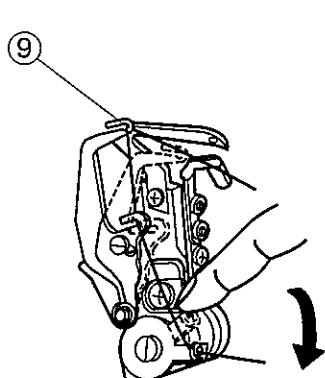
8. はずみ車を回して下ルーパーを最右点にして下ルーパー糸案内（1）を持ち上げると、下ルーパー糸案内（2）、（3）が、上方に現われます。

下ルーパー糸案内（2）に糸を掛けます。

9. 下ルーパー糸案内（3）に糸を掛けます。

⑧ 下ルーパー糸案内(2)

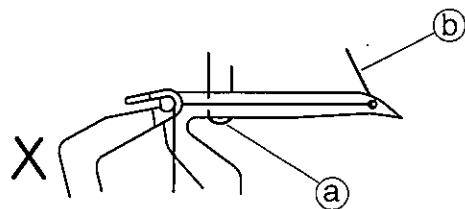
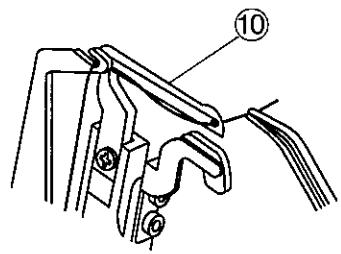
⑨ 下ルーパー糸案内(3)



10. 糸の先端を持って、下ルーパー糸案内（1）を指で押し下げると下ルーパー糸案内（2）、（3）は、元の位置に戻ります。

※ 下ルーパー糸案内（1）をもどしわすれても、はずみ車を手前にまわすと、下ルーパー糸案内（1）、（2）、（3）は自動的に元の位置にもどります。

11



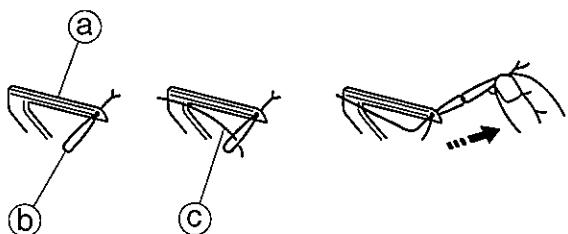
11. はすみ車をまわして、再び下ルーパーを最右点にします。下ルーパー糸穴に糸を通し、糸端は、糸穴から10cmほど引き出しておきます。

※ 鈎糸はルーパーにからまないようにしてください。

⑩ 下ルーパー

ⓐ 鈎糸

ⓑ 下ルーパー糸



ウーリーナイロン糸の通し方

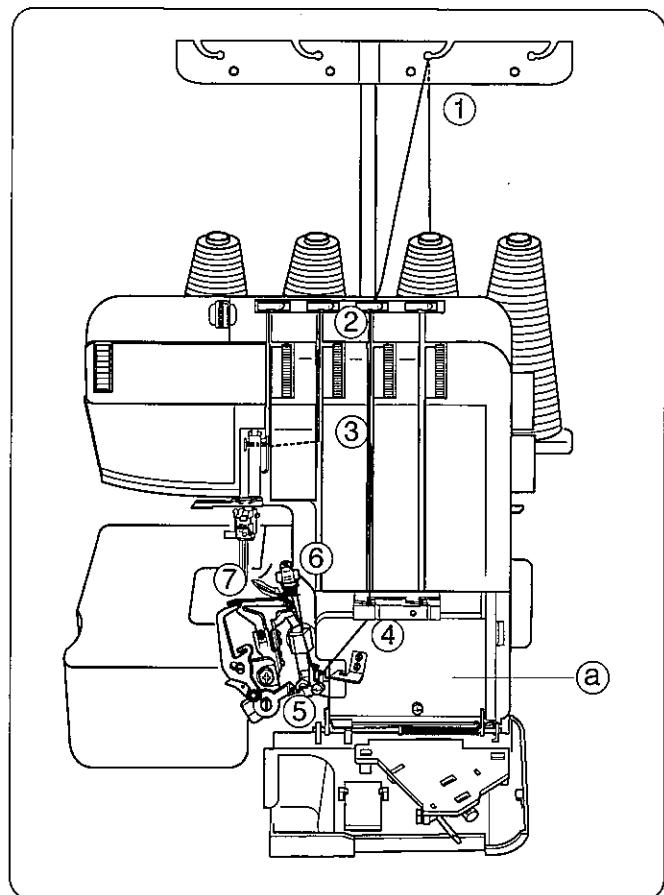
※ 下ルーパーの穴に通しにくいウーリーナイロン糸は、左図の方法で通します。

※ 上ルーパーの場合にも、同じ方法で糸通しをしてください。

ⓐ 下ルーパー

ⓑ 普通の糸

ⓒ ウーリーナイロン糸

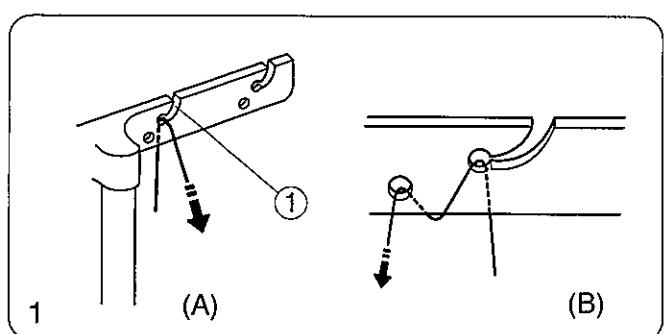


上ルーパー糸の通し方

糸こまを右から2番目の糸立て棒にはめます。

※ 黄色マークの糸道を通してください。

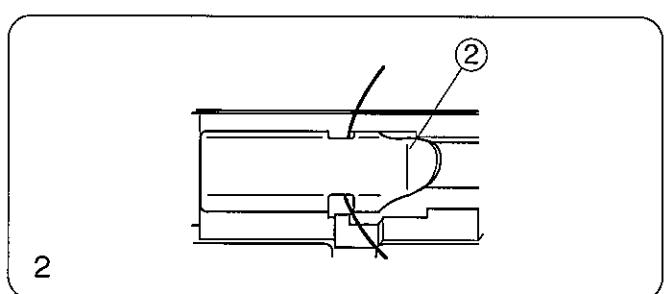
※ 糸道案内図は、ルーパーカバーを開けると左図の位置(a)にあります。



1. 糸こまから引き出した糸を、右から2番目の糸掛けに掛けます。

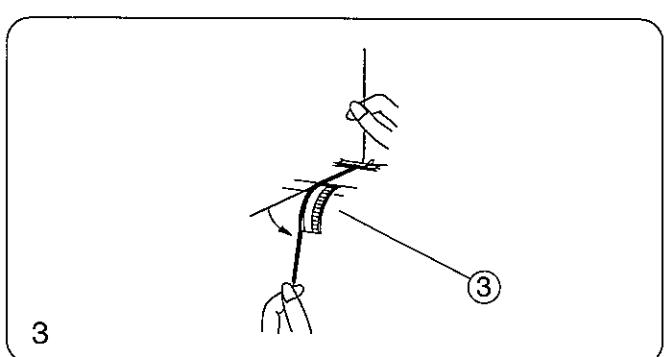
※ 通常は(A)のように糸を掛けますが、糸掛けから外れやすい糸は(B)のように穴にもう一度通します。

① 糸掛け



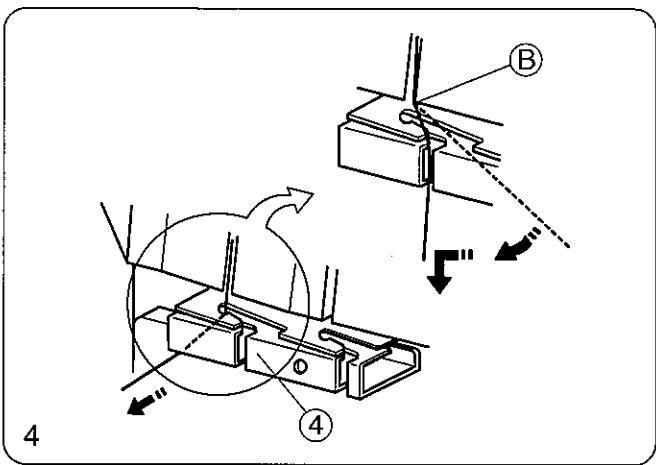
2. 糸掛けスタンドの糸掛けに糸を通したら、図のように糸案内板に入れます。

② 糸案内板



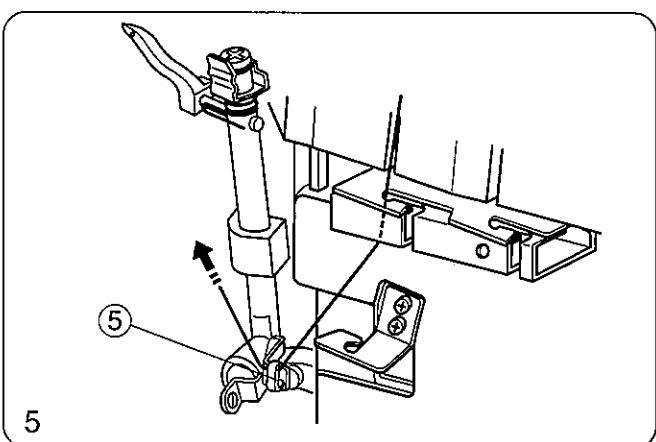
3. 溝にそって糸を引き、上ルーパー糸調子器に糸を通します。糸の両端をもって軽くしごき、糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。(押さえ上げをあげると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。)

③ 上ルーパー糸調子器



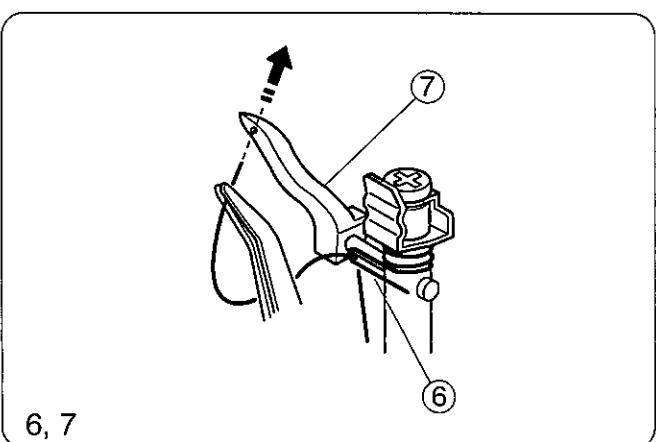
4. 糸を正面カバーの角部 ⑧、糸ガイド先端の順に案内し、ルーパー糸案内の左側溝に通します。

④ ルーパー糸案内



5. ルーパー天秤（上）に糸を掛けます。

⑤ ルーパー天秤（上）

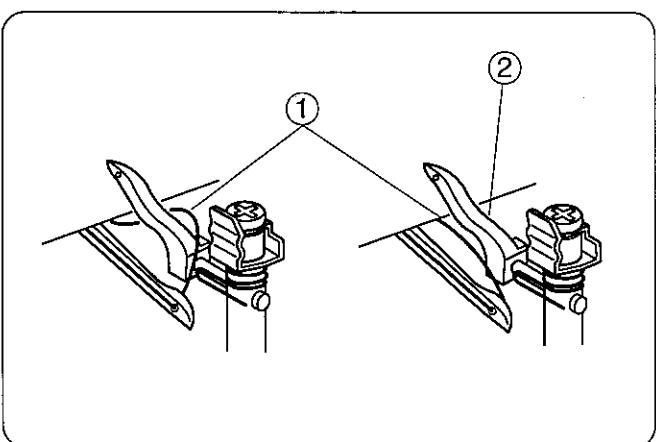


6. 上ルーパー糸案内に右側から糸を掛けます。

7. 糸の先端をピンセットでつまみ、上ルーパーの穴に通します。糸は糸穴から 10cm ほど引き出しておきます。

⑥ 上ルーパー糸案内

⑦ 上ルーパー

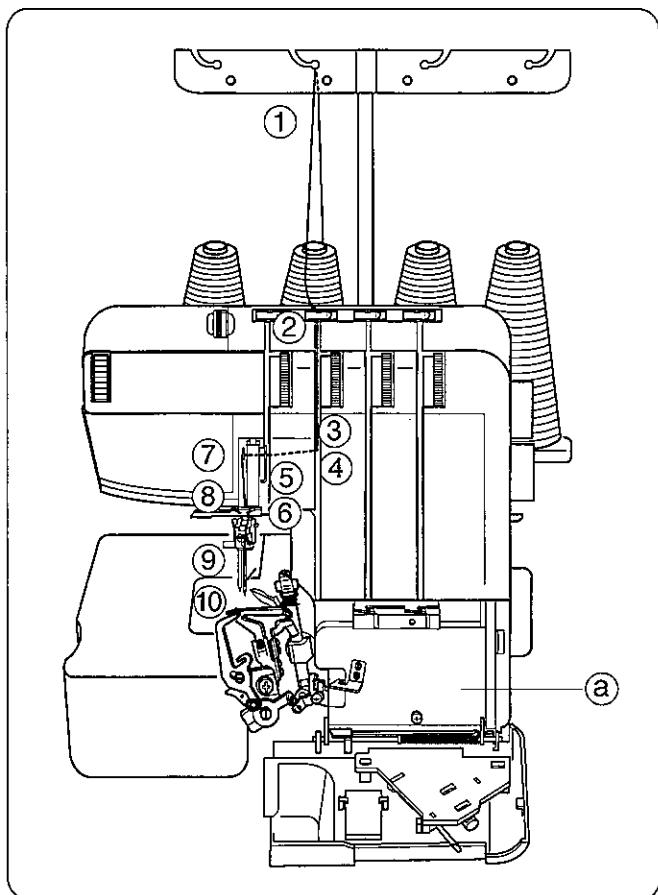


• 上ルーパー糸のみの通し方

ハズミ車を手前にまわして、上ルーパーが移動の中間地点に来たら、下ルーパー糸を上ルーパーから外します。
上ルーパーに糸を通します。

① 下ルーパー糸

② 上ルーパー

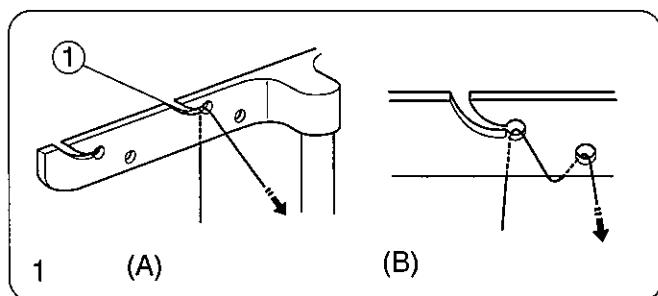


右針糸の通し方

糸こまから引き出した糸を、左から2番目の糸掛けに掛けます。

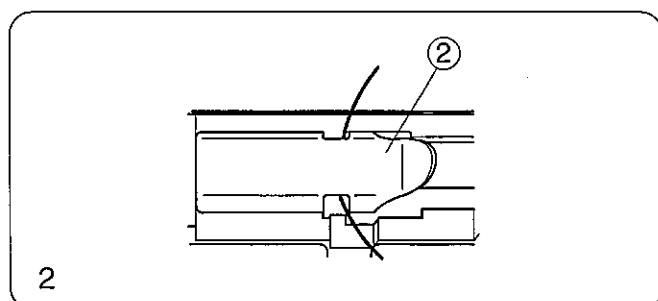
※ 赤色マークの糸道を通してください。

※ 糸道案内図は、ルーパーカバーをあけると左図の位置①にあります。



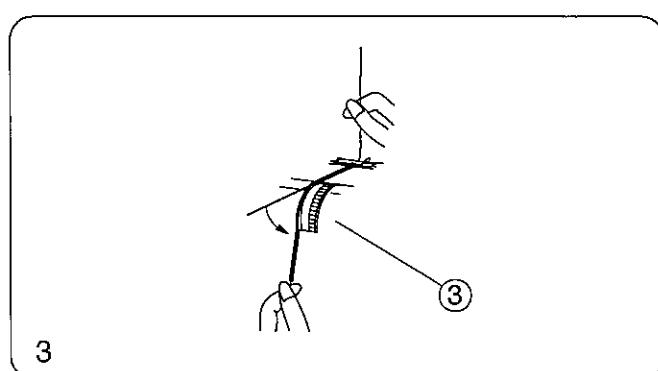
1. 通常は (A) のように糸を掛けますが、糸掛けから外れやすい糸は (B) のように穴にもう一度通します。

① 糸掛け



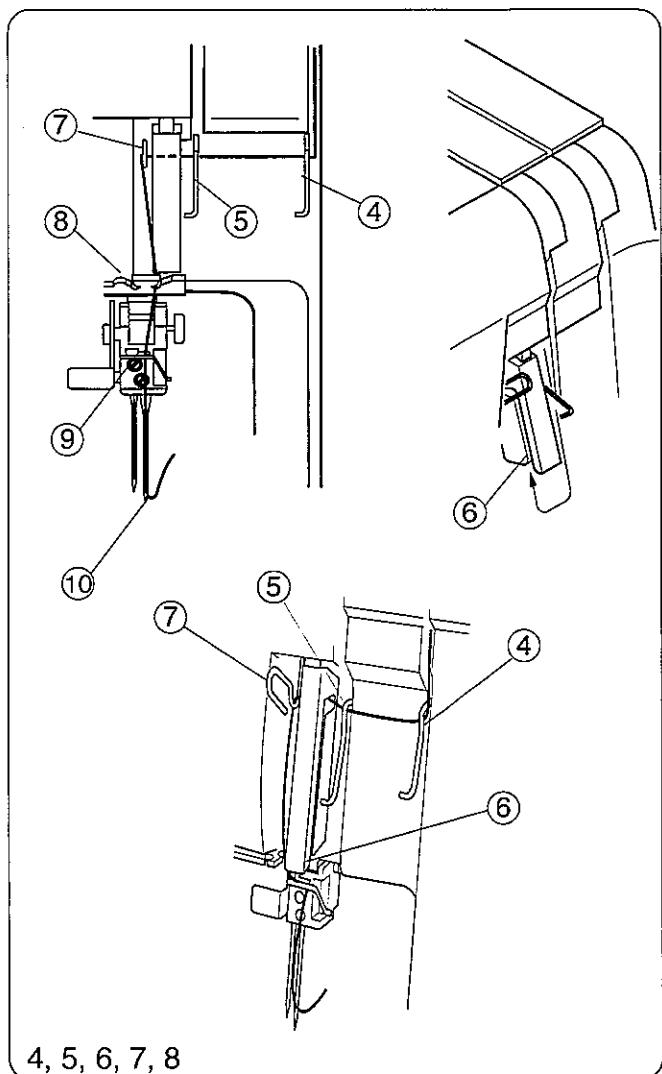
2. 糸掛けスタンドの糸掛けに糸を通して、図のように糸案内板に入れます。

② 糸案内板



3. 溝にそって糸を引き、針糸調子器（右）に糸を通して、糸の両端をもって軽くしごき、糸が確実に糸調子皿2枚の間にいることを確かめてください。
(押さえ上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。)

③ 針糸調子器（右）

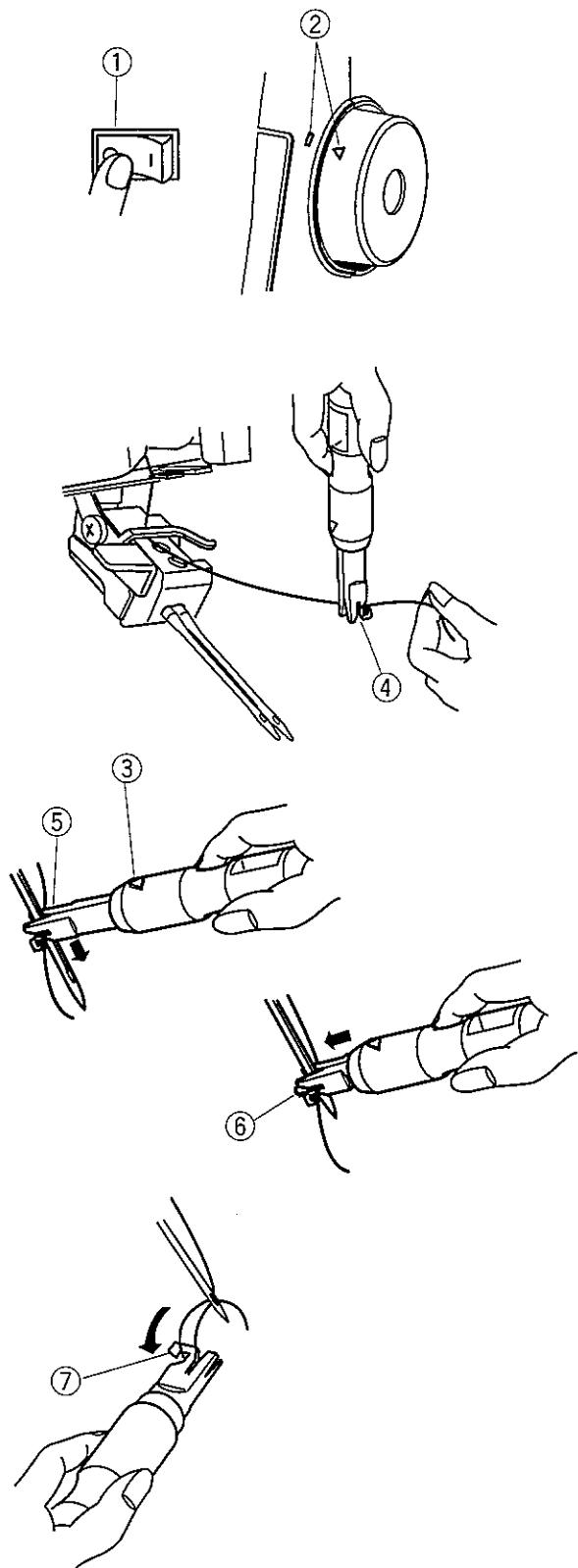


4, 5, 6, 7, 8

4. 糸を正面カバー糸案内（1）と（2）に右から左に掛けます。
5. 天びんカバーの下から糸をまわします。
糸を正面カバー糸案内（3）に掛けます。
6. 針糸案内の右側の溝に糸を掛けます。
7. 針棒糸掛けに右側から糸を掛けます。
8. 右針の針穴に手前から糸を通します。
糸は押さえの下から向こう側へ 10cm ほど引き出しておきます（糸の通し方は次ページを参照してください）。

- ④ 正面カバー糸案内（1）
- ⑤ 正面カバー糸案内（2）
- ⑥ 天びんカバー
- ⑦ 正面カバー糸案内（3）
- ⑧ 針糸案内
- ⑨ 針棒糸掛け
- ⑩ 右針

糸通し器の使い方



簡単に糸が通せるように針止めを傾けることができます（14ページ参照）。

糸を通しなおす場合は、針止めを傾ける前に針から糸をぬきます。

重要

針止めを傾ける場合は注意してください。

- 電源スイッチを切ってください。
- はずみ車をまわしてマークを合わせます。
- 押さえをさげます。

① 電源スイッチ

② マーク

ホルダーの三角マークを上向きにして持ち、針糸を横向きのY字溝に右から入れます。

③ 三角マーク

④ Y字溝

ホルダーの三角マークを上向きにして、糸の端を持ち、V字溝を針の中ほどに軽く押し当てます。

糸の端を持ったまま、ホルダーを針に軽く押し当てながら下にゆっくりとすべらせます。

⑤ V字溝

糸通しピンが針穴に入ったら、ホルダーを押して針糸を針穴に通します。

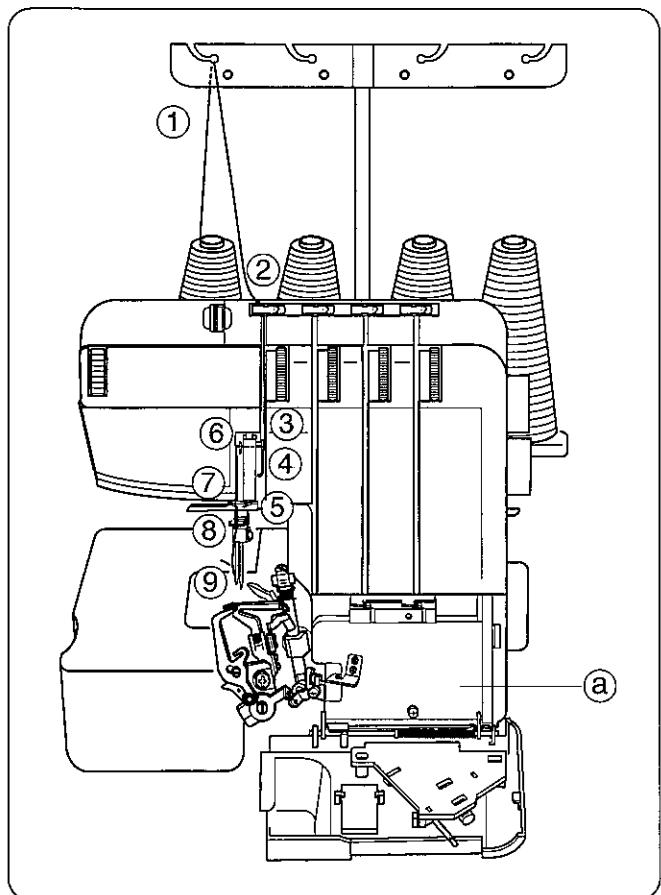
⑥ 糸通しピン

ホルダーをゆっくり戻し、糸輪をフックに掛け後ろに引き出します。

⑦ フック

注意

針止めを傾けたままはずみ車をまわすと針止めを破損することがあります。

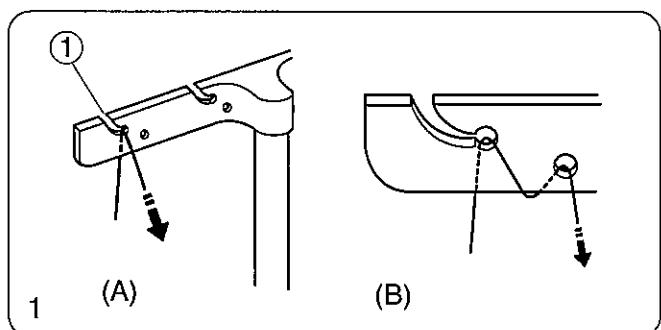


左針糸の通し方

糸こまから引き出した糸を、左の糸掛けに掛けます。

※ 青色マークの糸道を通してください。

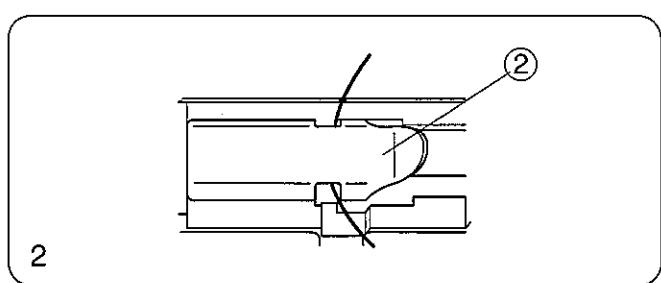
※ 糸道案内図は、ルーパーカバーをあけると左図の位置(a)にあります。



1. 糸こまから引き出した糸を、左側の糸掛けに掛けます。

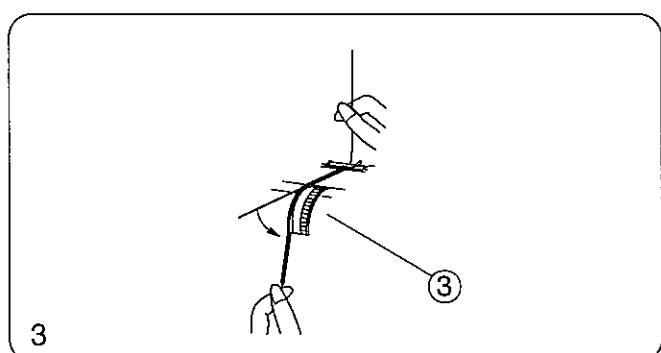
※ 通常は(A)のように糸を掛けますが、糸掛けから外れやすい糸は(B)のように穴にもう一度通します。

① 糸掛け



2. 糸掛けスタンドの糸掛けに糸を通したら、図のように最初の糸掛けに入れます。

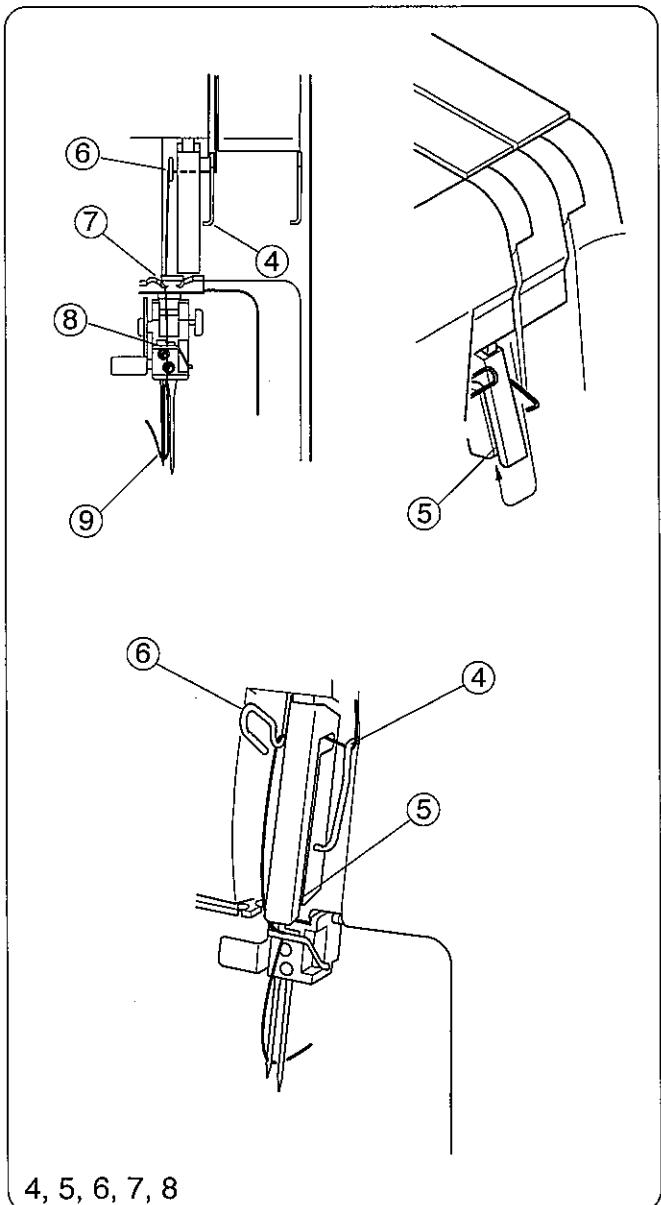
② 糸掛け



3. 溝にそって糸を引き、針糸調子器(左)に糸を通します。

糸の両端をもって軽くしごき、糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。(押さえ上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。)

③ 針糸調子器(左)



4, 5, 6, 7, 8

4. 糸を正面カバー糸案内（2）に右から左に掛けます。

5. 天びんカバーの下から糸をまわします。

糸を正面カバー糸案内（3）に掛けます。

6. 針糸案内の左側の溝に糸を掛けます。

7. 針棒糸掛けに右側から糸を掛けます。

8. 左針の針穴に手前から糸を通します。

糸は押さえの下から向こう側へ 10cm ほど引き出しておきます（糸の通し方は 29 ページを参照してください）。

④ 正面カバー糸案内（2）

⑤ 天秤カバー

⑥ 正面カバー糸案内（3）

⑦ 針糸案内

⑧ 針棒糸掛け

⑨ 左針

試しぬいをしましょう

ぬい始め

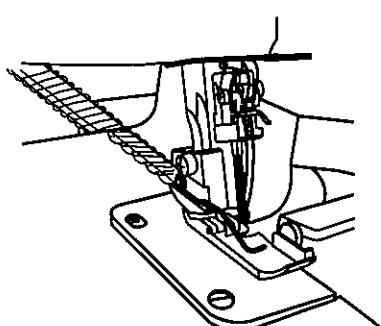
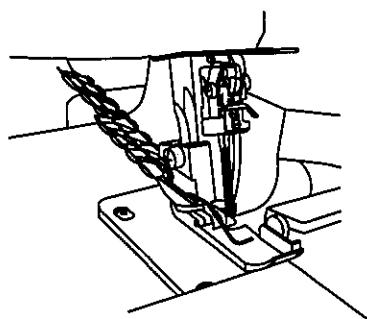
押さえ上げをさげます。

各糸を押さえの下から向こう側に引きそろえて、軽く向こう側へ引きながらゆっくりぬい始め、5~6cm、カラぬいをします。

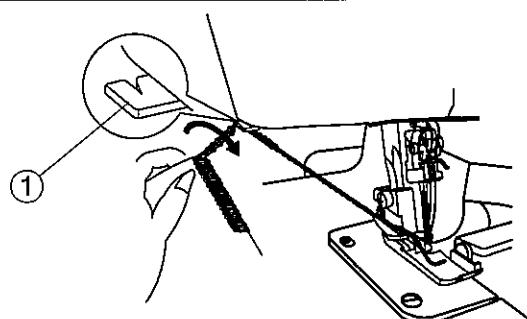
カラぬいした糸のからみぐあいを確かめながら、布をセットしてぬい始めます（押さえをあげる必要はありません）。

※ 布を無理に押したり、引いたりせずに、ぬいたい方向に軽く案内してください。

※ 厚い布をぬうときは、押さえ上げをあげ、布地を上メスの手前まで差し入れ、押さえ上げをさげて手で補助しながらぬい始めます。



1

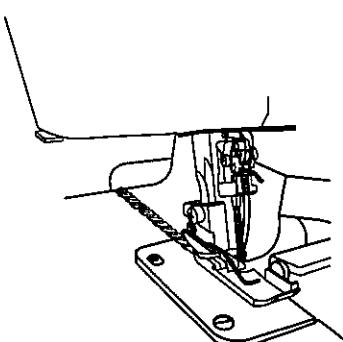


2

ぬい終わり

1. 布の端までぬい終わったら、そのままミシンを低速で、約12~13cm、カラぬいをします。
2. 布の端より5~6cm 残し、カラぬいをした糸を糸切りか、はさみで切れます。

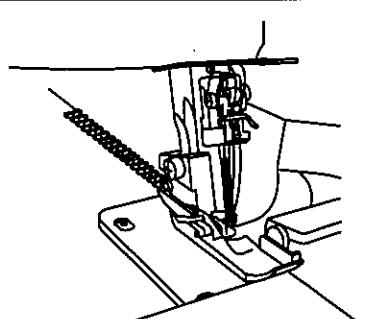
① 糸切り



つづけてぬうとき

押さえ上げをあげずに、つぎの布地を押さえの下に差し込むようにしてぬいます。

※ 厚い布をぬうときは、押さえ上げをあげ、布地を上メスの手前まで差し入れ、押さえ上げをさげて手で補助しながらぬい始めます。



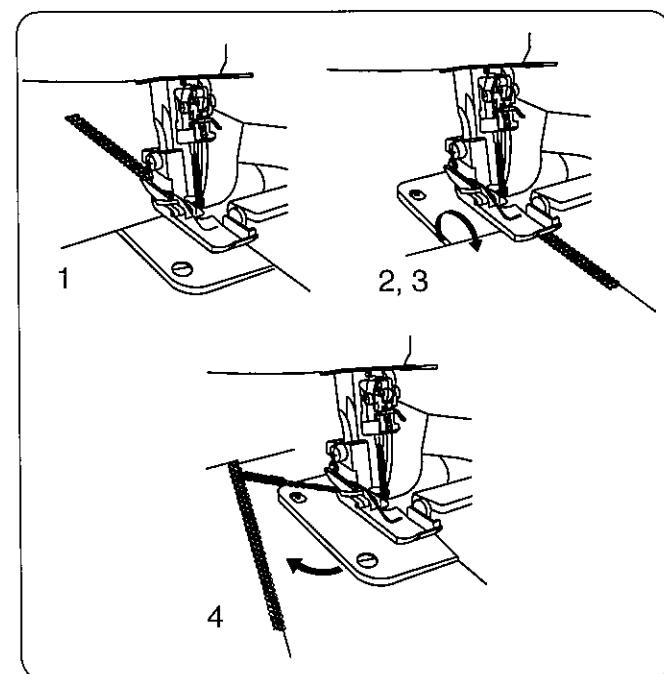
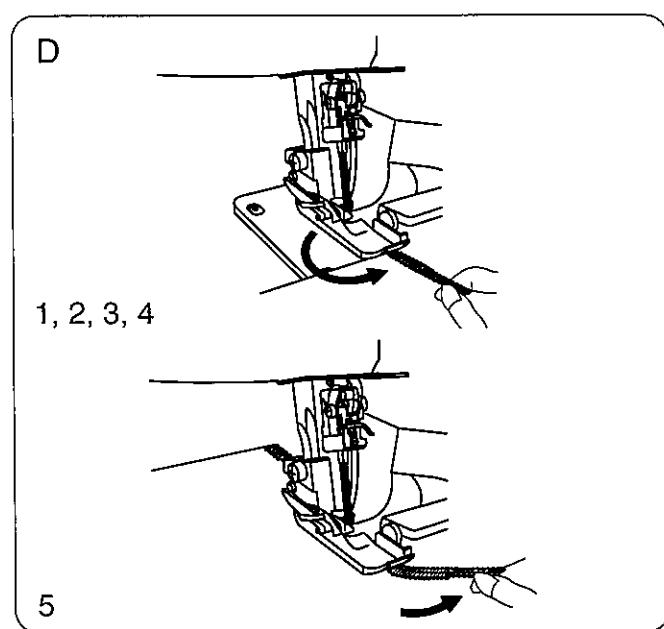
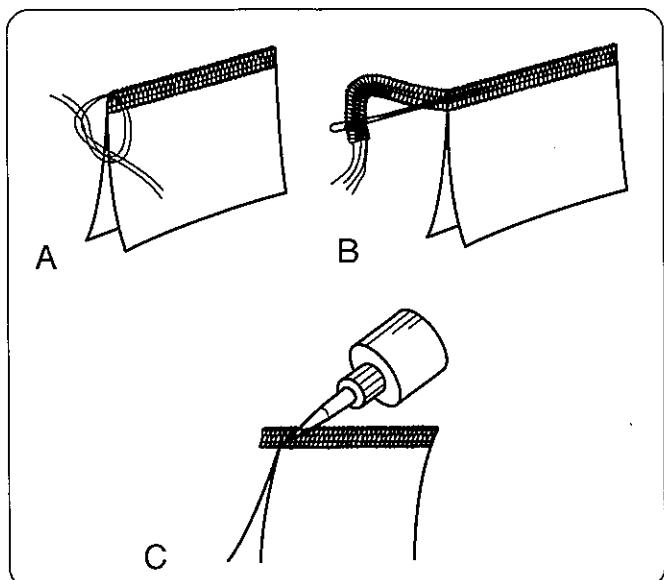
ガイドラインの使い方

ルーパーカバーの上部には、針落ちからの距離を示すガイドラインが表示されています。

布ふちから、ぬい目までの目安としてお使いください。

3本ある刻み線は6mm 間隔となっており、中央は針落ちから15mm です。

それぞれの刻み線は、Rマークが右針、Lマークが左針からの距離を表しています。



ぬい始め、ぬい終わりの糸の始末

ぬい始め、ぬい終わりの糸をそのままにしておくとほつれてしまいます。ぬい始め、ぬい終わりの糸の始末には色々な方法がありますので、お好みの方法をお選びください。

ぬい始め

- 5cm位のカラぬい糸をほどき、その糸を使って布端で結び目を作る方法。
- カラぬい糸をとじ針でぬい目の中に入れる方法。
- 布端のカラぬい糸の根元に手芸用ボンドを少し付け、乾燥してから余分な糸を切り落とす方法。

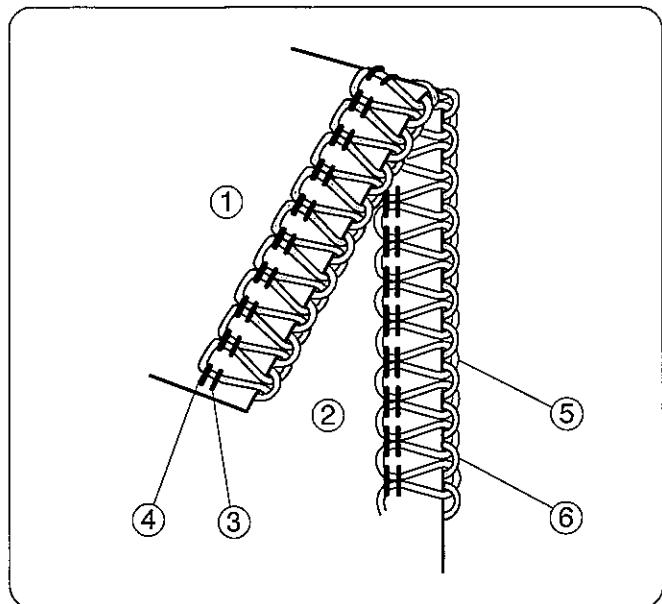
D. ロックミシンでぬい始めを始末する方法。

- カラぬい糸を5cm位出しておきます。
- 布地を入れ、2、3針だけぬいいます。
- ミシンを止め、押さえをあげます。
- カラぬい糸を左から押さえの下に入れ、軽く手前引ひながら、押さえを下げ、布といっしょにぬい込みます。
- 2~3cmぬったら、カラぬい糸を右に寄せてメスで切り落としながらぬいこみます。

ロックミシンでぬい終わりを始末する方法

※ぬい始めの糸の始末 A. ~ C. か下記の方法で始末します。

- 布地の終わりの所でミシンを止めます。
- 針と押さえをあげ、布地をかがり爪からはずして裏返します。かがり幅を合わせて針を落とし、押さえをさげます。
- 今までぬった所がメスに当たらないように2~3cmぬいながら横方向に布地をはずします。
- 余分なカラぬい糸を切り落とします。



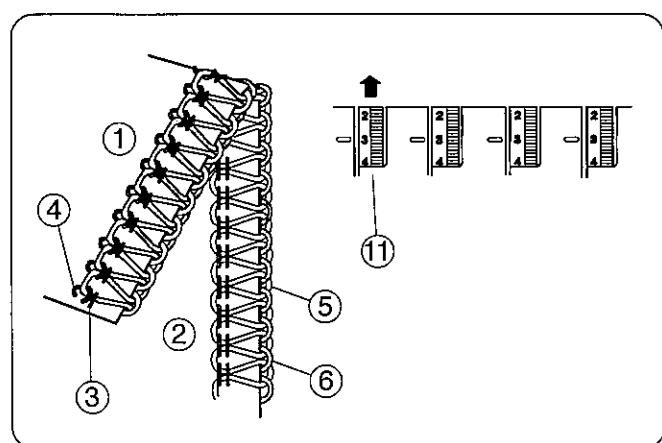
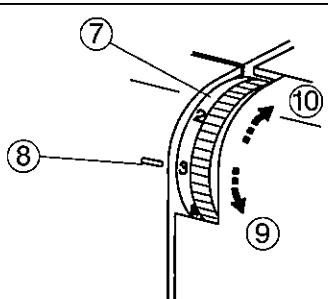
糸調子の出し方 (2本針4本糸ふちかがりぬい)

正しい糸調子

正しい糸調子は図の通りです。

糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。

- ① 布の裏
- ② 布の表
- ③ 右針糸
- ④ 左針糸
- ⑤ 上ルーパー糸
- ⑥ 下ルーパー糸



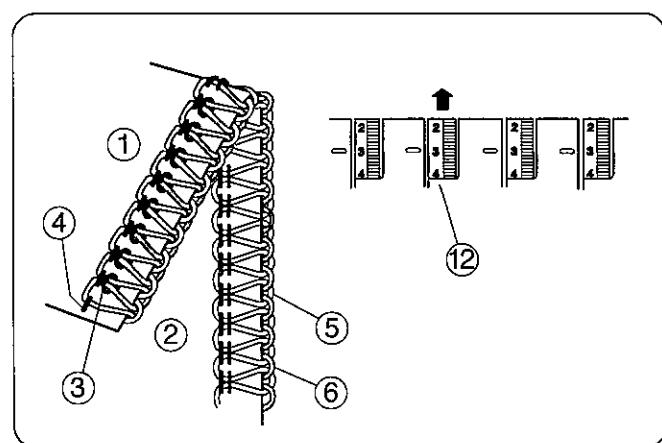
左針糸が弱いとき

図は左針糸が弱い場合です。

調節方法

針糸調子器（左）を強くする。

⑪ 針糸調子器（左）



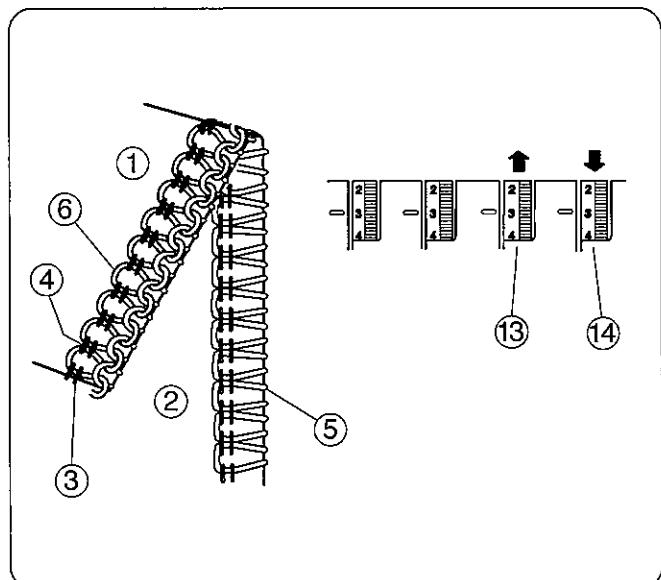
右針糸が弱いとき

図は右針糸が弱い場合です。

調節方法

針糸調子器（右）を強くする。

⑫ 針糸調子器（右）



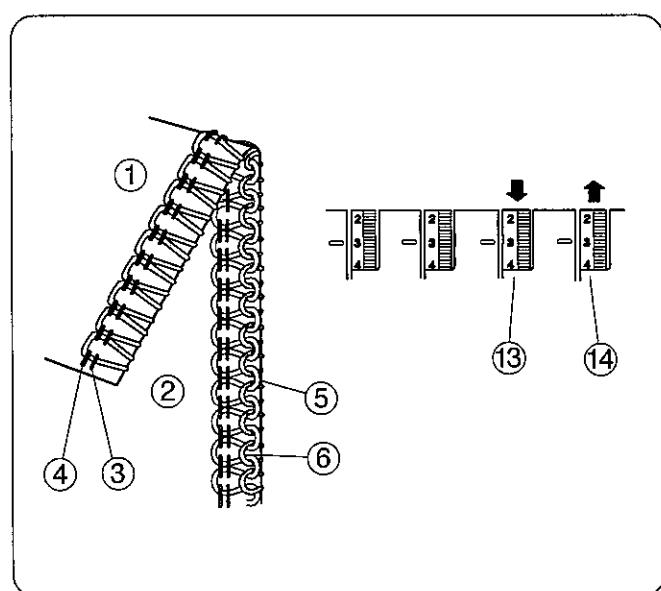
ルーパー糸の糸調子が正しくないとき(1)

図は下ルーパー糸が強いか、上ルーパー糸が弱い場合です。

調節方法

下ルーパー糸調子器を弱くする。または上ルーパー糸調子器を強くする。

- ① 布の裏
- ② 布の表
- ③ 右針糸
- ④ 左針糸
- ⑤ 上ルーパー糸
- ⑥ 下ルーパー糸
- ⑬ 上ルーパー糸調子器
- ⑭ 下ルーパー糸調子器



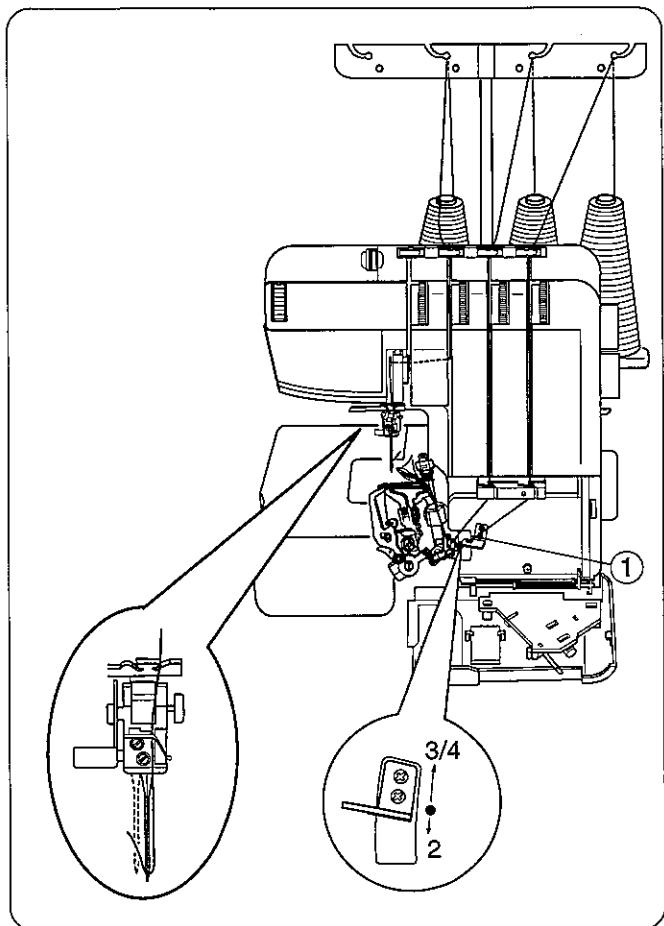
ルーパー糸の糸調子が正しくないとき(2)

図は下ルーパー糸が弱いか、上ルーパー糸が強い場合です。

調節方法

下ルーパー糸調子器を強くする。または上ルーパー糸調子器を弱くする。

- ⑬ 上ルーパー糸調子器
- ⑭ 下ルーパー糸調子器



1本針 3本糸ふちかがりぬい

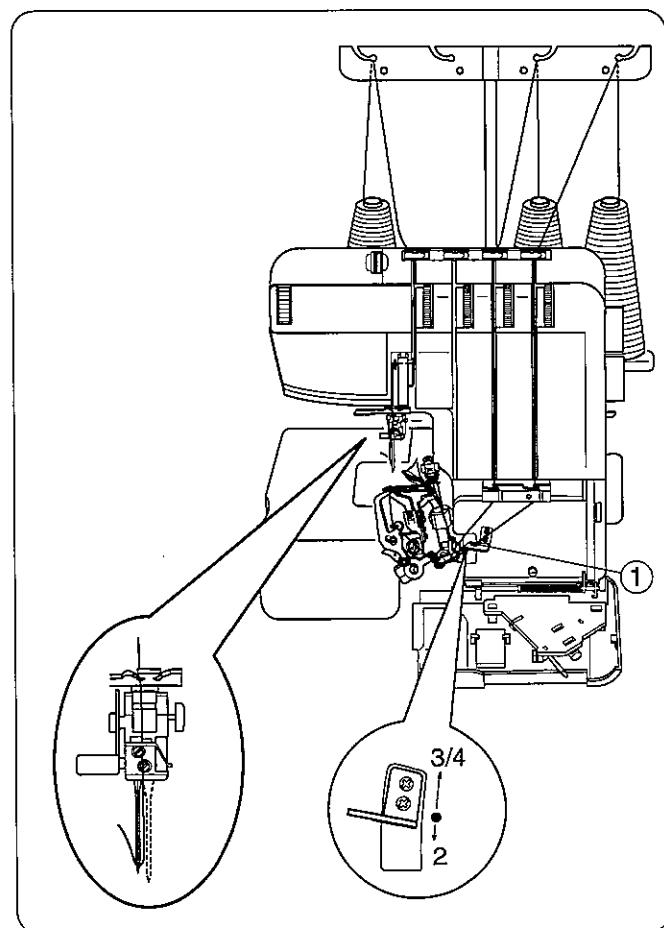
右針のみを使う場合（ぬい目 6-9）

右針を使う場合の標準的なかがり幅は 3.5 mm です。
図は針糸の通し方を示しています。

備考

使わない針止めネジも締めてなくならないようにします。

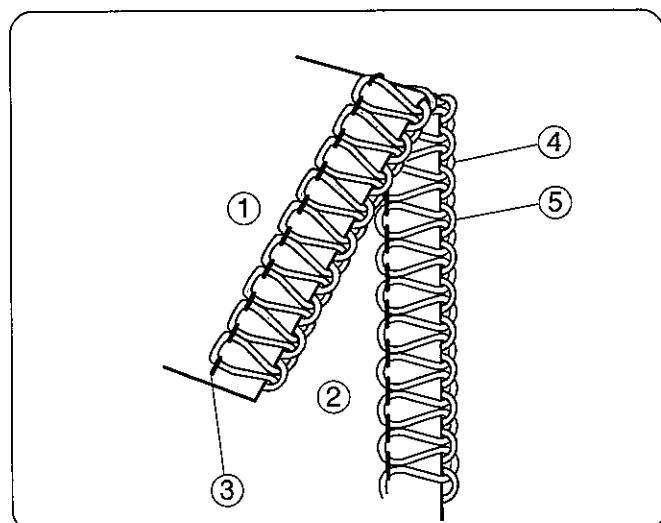
① スライド糸案内: 3/4



左針のみを使う場合（ぬい目 10-12）

左針を使う場合の標準的なかがり幅は 5.7 mm です。
図は針糸の通し方を示しています。

① スライド糸案内: 3/4



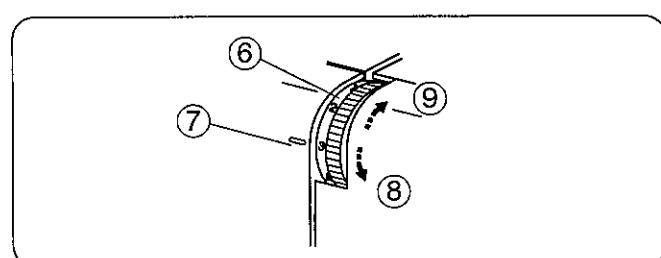
糸調子の出し方（1本針3本糸ふちかがりぬい）

正しい糸調子

正しい糸調子は図の通りです。

糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。

- ① 布の裏
- ② 布の表
- ③ 左右いずれかの針糸
- ④ 上ルーパー糸
- ⑤ 下ルーパー糸

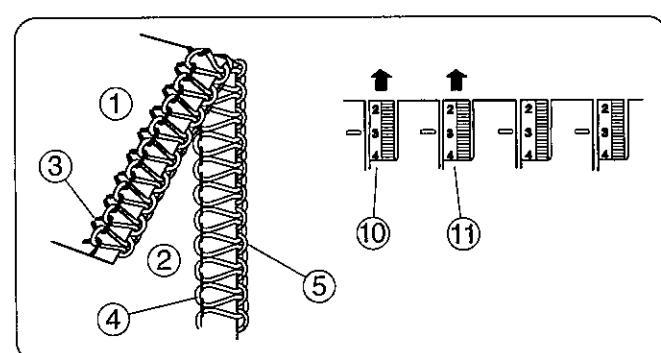


糸調子の調節のし方

※針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の各糸調子を目盛「3」に合わせます。

試しぬいをして、ぬい目を見ながら正しく調節してください。

- ⑥ 糸調子器
- ⑦ 指示線
- ⑧ 弱くなる
- ⑨ 強くなる



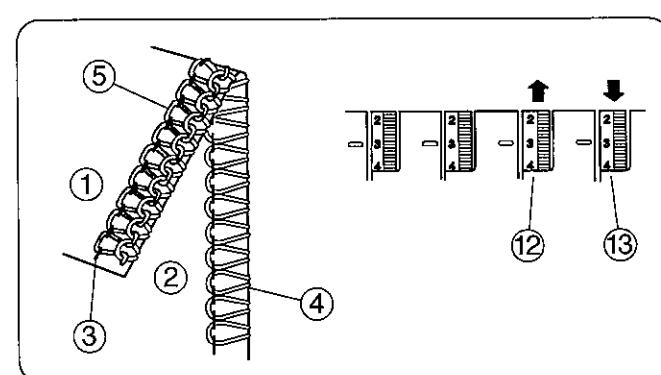
針糸が弱いとき

図は針糸が弱い場合です。

調節方法

針糸調子器を強くする。

- ⑩ 針糸調子器（左）
- ⑪ 針糸調子器（右）



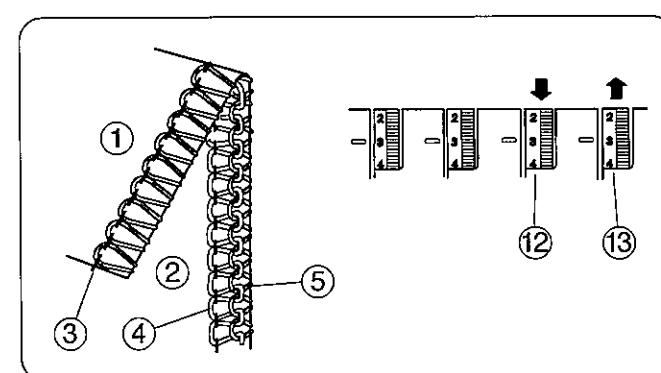
ルーパー糸の糸調子が正しくないとき(1)

図は下ルーパー糸が強いか、上ルーパー糸が弱い場合です。

調節方法

下ルーパー糸調子器を弱くする。または上ルーパー糸調子器を強くする。

- ⑫ 上ルーパー糸調子器
- ⑬ 下ルーパー糸調子器



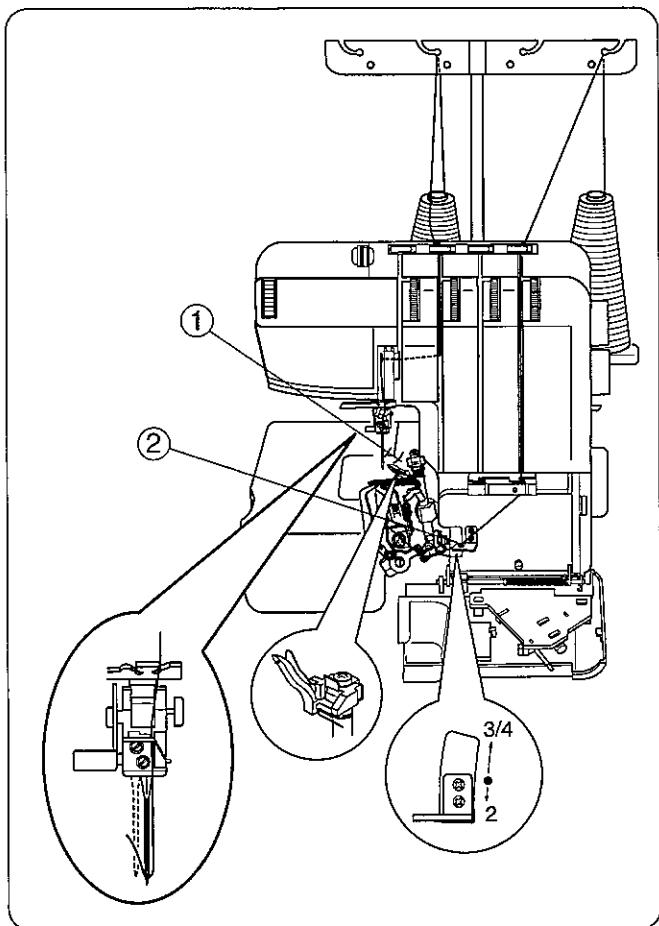
ルーパー糸の糸調子が正しくないとき(2)

図は下ルーパー糸が弱いか、上ルーパー糸が強い場合です。

調節方法

下ルーパー糸調子器を強くする。または上ルーパー糸調子器を弱くする。

- ⑫ 上ルーパー糸調子器
- ⑬ 下ルーパー糸調子器



1 本針 2 本糸ふちかがりぬい

右針のみを使う場合（巻きぬい2）：かがり幅 3.5 mm

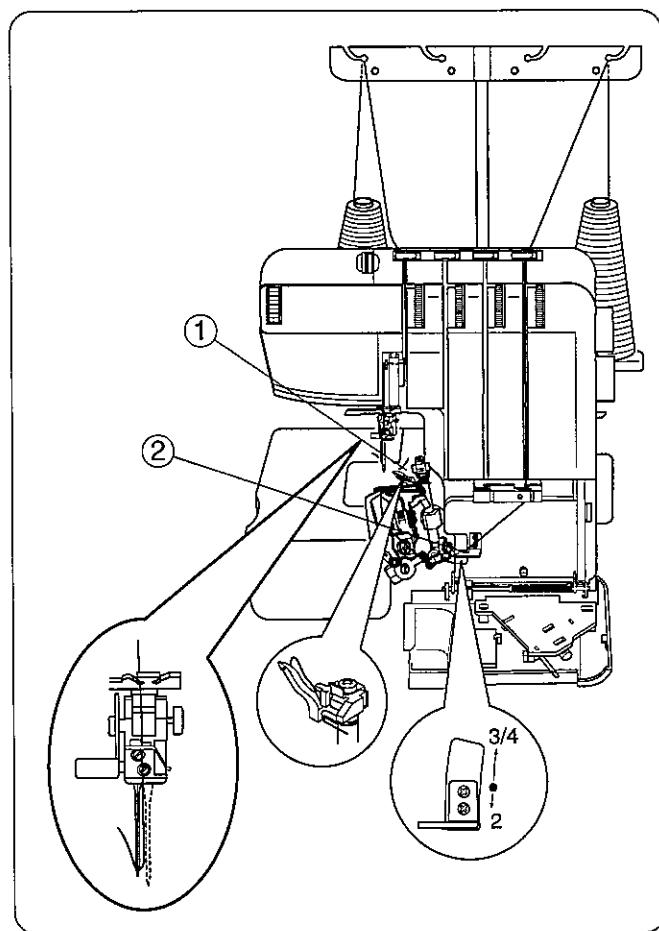
右針を使う場合の標準的なかがり幅は 3.5 mm です。

図は針糸の通し方を示しています。

備考

使わない針止めネジも締めてなくならないようにします。

- ①スプレッダー
- ②スライド糸案内: 2



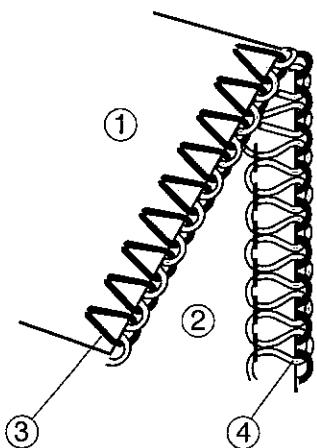
左針のみを使う場合（縁かがり2・フラットロック2）

左針を使う場合の標準的なかがり幅は 5.7 mm です。

図は針糸の通し方を示しています。

- ①スプレッダー
- ②スライド糸案内: 2

糸調子の出し方（1本針2本糸ふちかがりぬい）

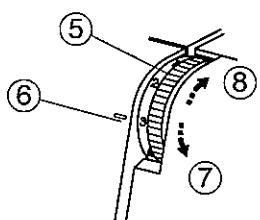


正しい糸調子

正しい糸調子は図の通りです。

糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。

- ① 布の裏
- ② 布の表
- ③ 左右いずれかの針糸
- ④ 下ルーパー糸

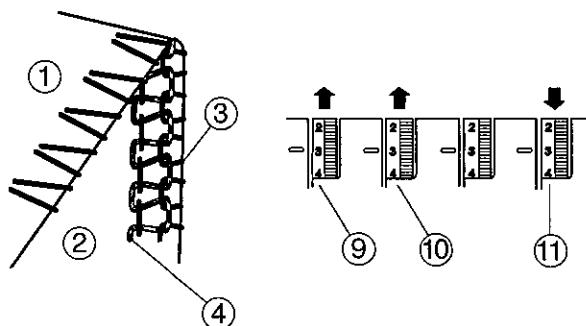


糸調子の調節のし方

※針糸、下ルーパー糸の各糸調子を目盛「3」に合わせます。

試しぬいをして、ぬい目を見ながら正しく調節してください。

- ⑤ 糸調子器
- ⑥ 指示線
- ⑦ 弱くなる
- ⑧ 強くなる



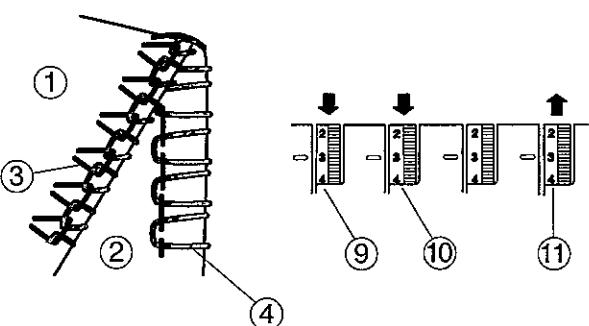
針糸・下ルーパー糸の糸調子が正しくないとき(1)

図は下ルーパー糸が強いか、針糸が弱い場合です。

調節方法

下ルーパー糸調子器を弱くする。または針糸調子器を強くする。

- ⑨ 針糸調子器（左）
- ⑩ 針糸調子器（右）
- ⑪ 下ルーパー糸調子器



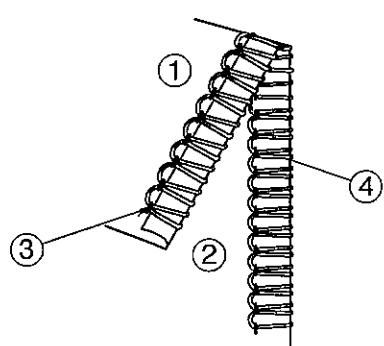
針糸・下ルーパー糸の糸調子が正しくないとき(2)

図は下ルーパー糸が弱いか、針糸が強い場合です。

調節方法

下ルーパー糸調子器を強くする。または針糸調子器を強くする。

- ⑨ 針糸調子器（左）
- ⑩ 針糸調子器（右）
- ⑪ 下ルーパー糸調子器



巻きぬい3（1本針2本糸）の正しい糸調子

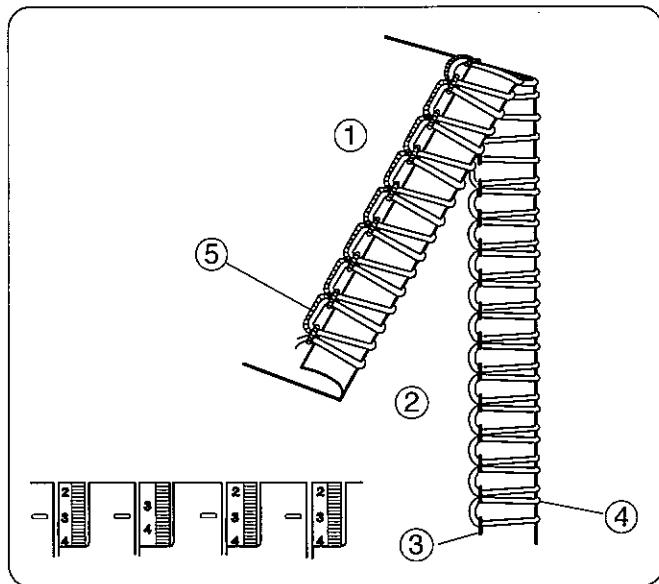
正しい糸調子は図の通りです。

スライド糸案内を②に合わせます。

糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって調節が異なります。

試しぬいをして、ぬい目を見ながら正しく調節してください。

- ① 布の裏
- ② 布の表
- ③ 針糸
- ④ 下ルーパー糸



巻きぬい（1本針3本糸）の糸調子

正しい糸調子

正しい糸調子は図の通りです。

糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。

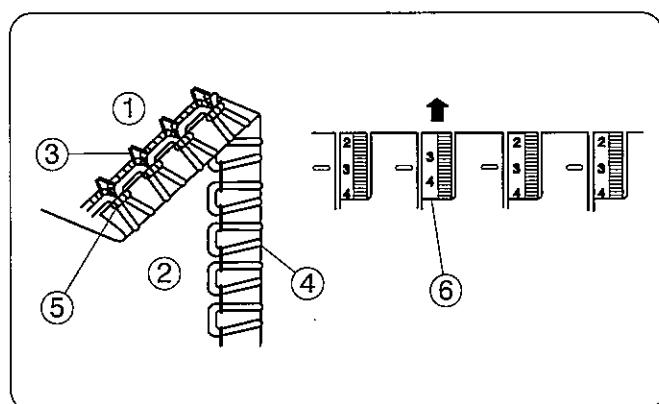
- ① 布の裏
- ② 布の表
- ③ 右針糸
- ④ 上ルーパー糸
- ⑤ 下ルーパー糸

糸調子の調節のし方

1. 糸調子器を図のように合わせます。.

2. 試しぬいをして、ぬい目を見ます。

3. 糸調子が正しくない場合は、糸調子器で調節します。



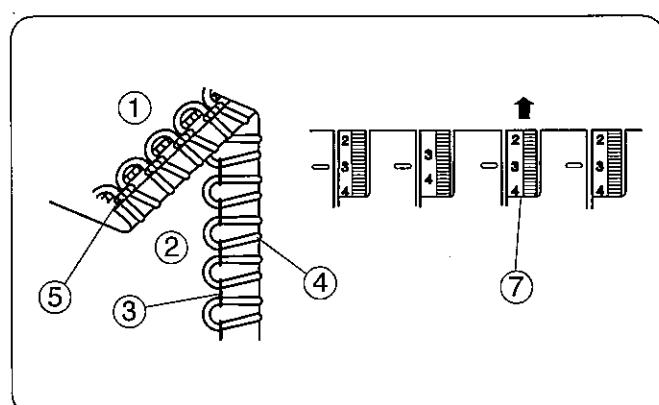
針糸が弱いとき

図は右針糸が弱い場合です。

調節方法

針糸調子器を強くする。

- ⑥ 針糸調子器（右）



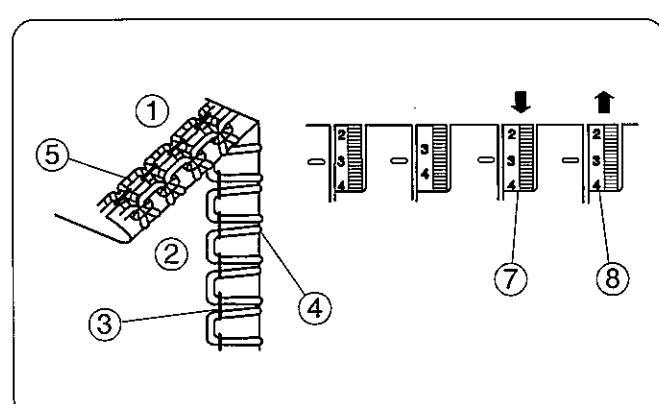
上ルーパー糸が弱いとき

図は上ルーパー糸が弱い場合です。

調節方法

上ルーパー糸調子器を強くする。

- ⑦ 上ルーパー糸調子器



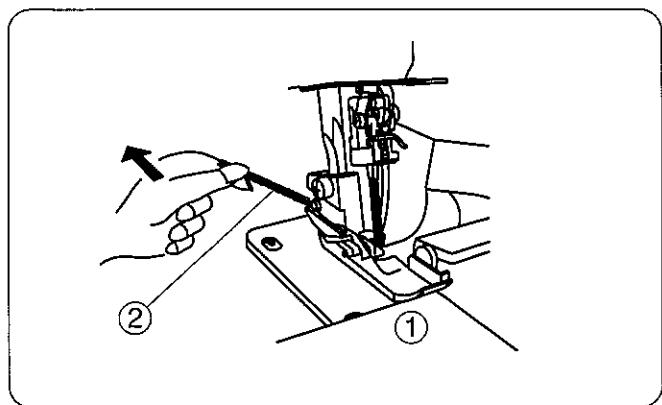
ルーパー糸の糸調子が正しくないとき

図は上ルーパー糸が強いか、下ルーパー糸が弱い場合です。

調節方法

上ルーパー糸調子器を弱くする。または下ルーパー糸調子器を強くする。

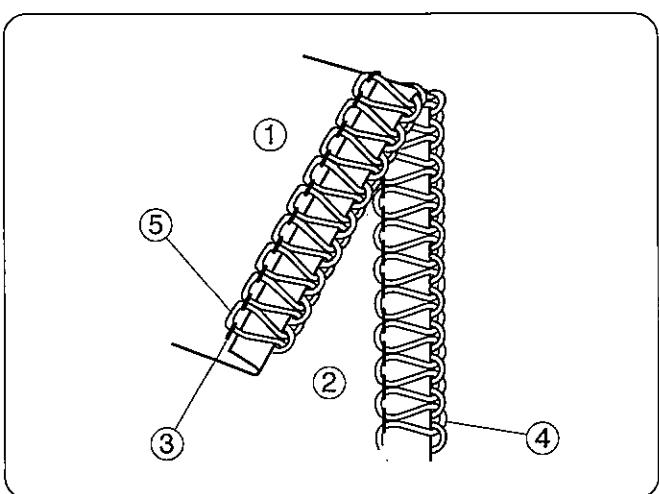
- ⑦ 上ルーパー糸調子器
- ⑧ 下ルーパー糸調子器



巻きぬい3 (1本針2本糸)

ぬい始めは、カラぬいした糸を指で軽く向こう側へ引きぎみにしてぬうときれいに仕上がります。

- ① 布
- ② カラぬいした糸



細ロック3の正しい糸調子

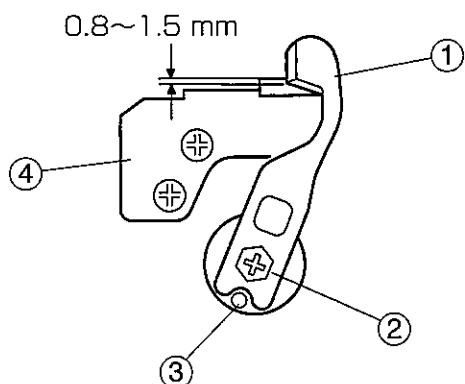
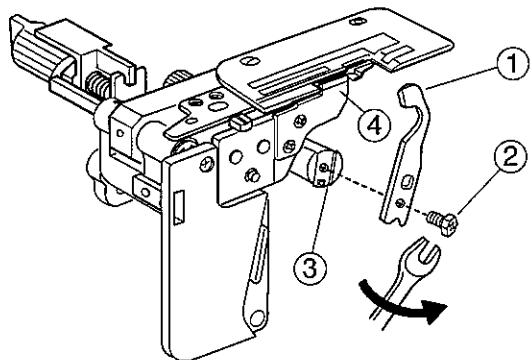
正しい糸調子は図の通りです。

- ① 布の裏
- ② 布の表
- ③ 右針糸
- ④ 上ルーパー糸
- ⑤ 下ルーパー糸

ミシンのお手入れ

注意

ミシンのお手入れのときには、必ず電源スイッチを切りコンセントから電源プラグを抜いてください。ケガの原因になります。



上メスのとりかえ方

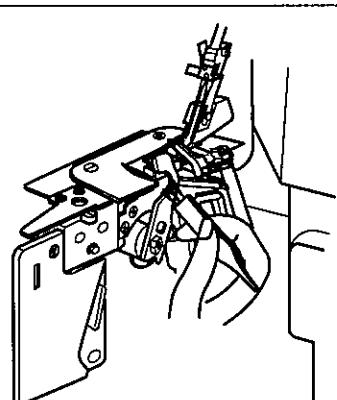
はずし方

1. 電源スイッチを切り、電源プラグを抜きます。
2. ルーパーカバーと布板をひらきます。
3. はずみ車をまわして上メスを一番高い位置にします。
4. 六角ボルトをはずして、上メスをはずします。

つけ方

1. 新しい上メスをピンに合わせて軸の溝にはめます。
六角ボルトを軽くしめます。
2. はずみ車をまわして上メスを一番低い位置にします。
六角ボルトをゆるめ、図のように上メスと下メスの重
なりが0.8 mm～1.5 mmにします。
六角ボルトをしっかりしめます。
3. ルーパーカバーと布板をしめます。

- ①上メス
②六角ボルト
③ピン
④下メス

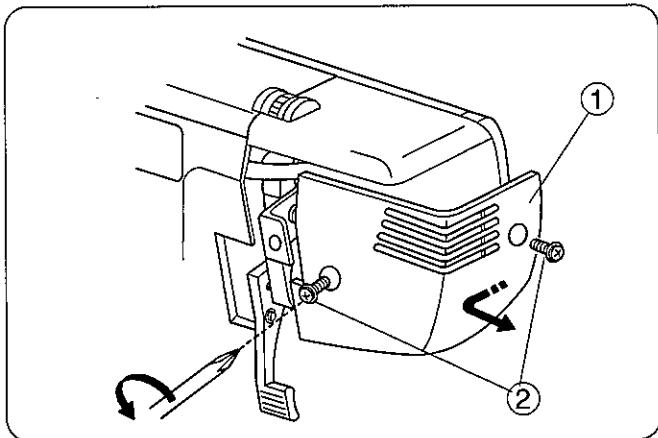


切りくずの掃除

1. 電源スイッチを切り、電源プラグを抜きます。
2. ルーパーカバーをひらきます。
切りくずをブラシで取り除きます。

※ブラシで掃除しにくい切りくずやほこりは、電気掃除機で吸い取ってください。

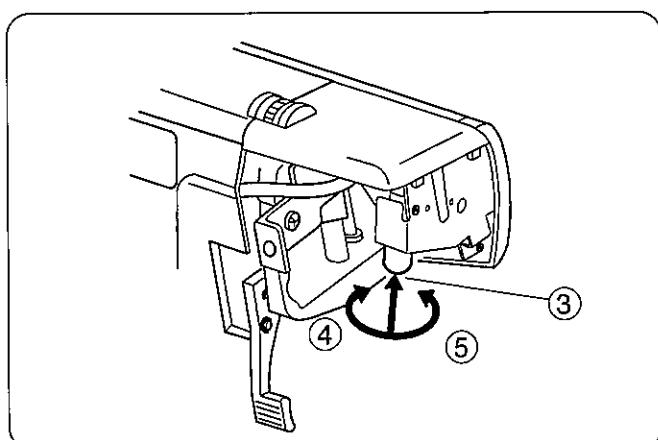
※ミシンを普通にお使いの場合、下メスは1年以上も
ります。待ち針や硬いものを切ってしまったときは、上
メスと下メスを両方同時にとりかえる必要がある場合
があります。



電球のとりかえ方

1. 電源スイッチを切り、電源プラグを抜きます。
2. しめねじをはずし、面板をはずします。

① 面板
② しめねじ



電球をはずすとき……左にまわします。

電球をつけるとき……右にまわします。

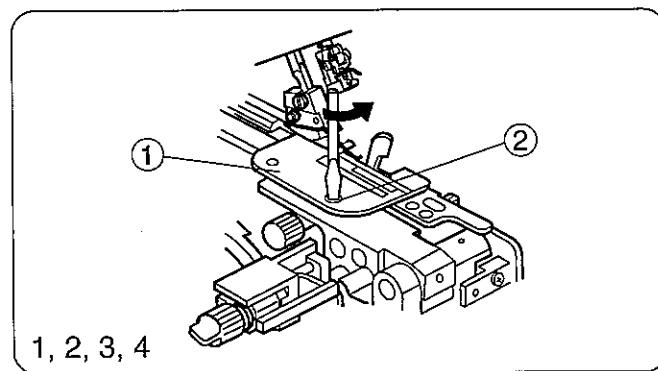
電球をとりかえ終わったら、面板をとりつけて、しめねじをつけます。

③ 電球
④ 電球をはずす
⑤ 電球をつける

備考

※このミシンの電球は照明用 100V – 12W を使用してください。

※電球をとりかえるときは、電球が冷えていることを確認してください。

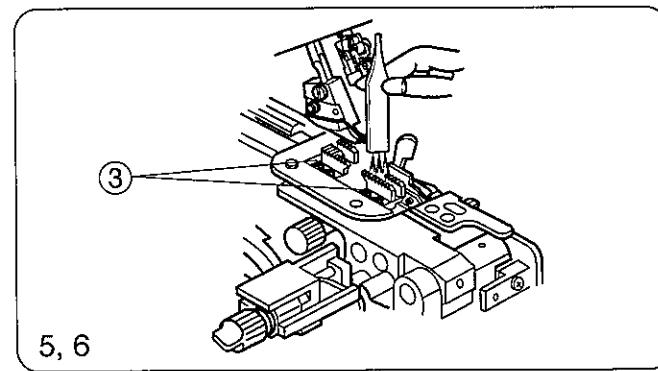


1, 2, 3, 4

送り歯の掃除

1. 電源スイッチを切り、電源プラグを抜きます。
2. ルーパーカバーと布板をひらきます。
3. 針と押さえをはずします。
4. 針板しめねじをはずし、針板をはずします。
5. 送り歯のごみを、ブラシで落とします。
6. 針板、押さえ、針を取りつけ、ルーパーカバーと布板をしめます。

③ 送り歯



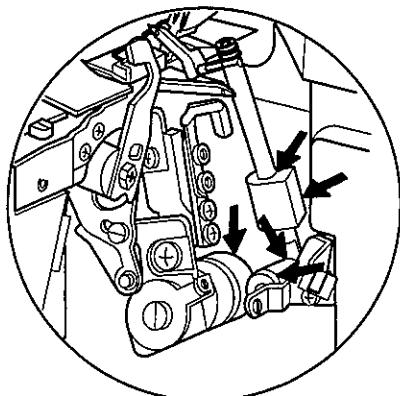
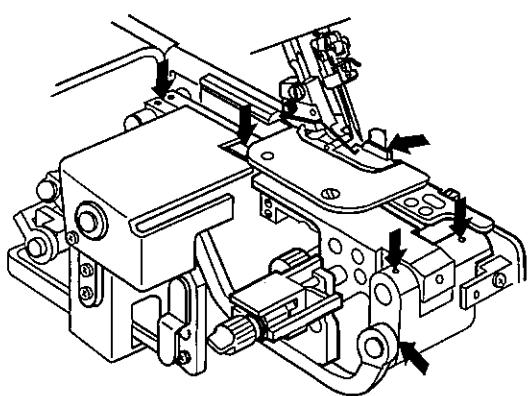
5, 6

注油のし方

矢印の箇所に良質のミシン油を1~2滴注油します。

快適にご使用いただくために、定期的な注油をしてください。

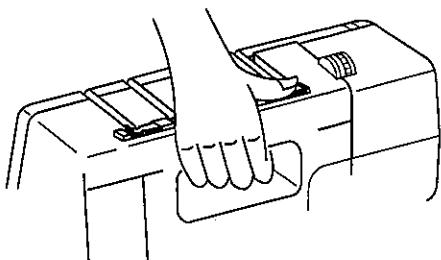
※布板をひらいて注油します。



※ルーパーカバーをひらいて注油します。

ミシンの持ち運び方

ミシン本体裏側の上部にくぼみがありますので、図のように指をかけますと、持ち運びができます。



調子がよくないときの直し方

調子がよくない状態	原因	直し方
布地を送らない。	1.送り歯が糸くずでつまっている。 2.押さえがあがっている。	44 ページ参照 押さえをおろす。
針が折れる。	1.針のつけ方がまちがっている。 2.針がまがっていたり、針先がつぶれている。 3.布地を無理に引っ張った。	14 ページ参照 針をとりかえる。 ぬう時は軽く引く程度にする。
糸が切れる。	1.糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 2.糸調子が強すぎる。 3.針のつけ方がまちがっている。 4.針がまがっていたり、針先がつぶれている。	20～31 ページ参照 34～42 ページ参照 14 ページ参照 針をとりかえる。
ぬい目がとぶ。	1.針がまがっていたり、針先がつぶれている。 2.糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 3.針のつけ方がまちがっている。	針をとりかえる。 20～31 ページ参照 14 ページ参照
ぬい目の調子が悪い。	1.糸調子が強すぎるか、弱すぎる。 2.糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 3.針と糸が布に対して合っていない。 4.糸調子皿に、糸がきちんと入っていない。	34～42 ページ参照 20～31 ページ参照 10～13 ページ参照 22、25、27、30 ページ参照
ぬい目がしわになる。	1.糸調子が強すぎる。 2.糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 3.縫い目の伸縮調節ダイヤルの設定がまちがっている	34～42 ページ参照 20～31 ページ参照 13 ページ参照
ミシンがまわらない。	1.コンセントにプラグがきちんとさしこまれていない。 2.電源スイッチが OFF になっている。	5 ページ参照 5 ページ参照
ぬい目と布のバランスが悪い。	1.切り幅の調節が合っていない。 2.上メスの刃先がつぶれている。	19 ページ参照 上メスをとりかえる (43 ページ参照)

仕 様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	110W
外形寸法	幅32.9cm×奥行26.5cm×高さ28.3cm
質量	6.7kg(本体)
使用針	家庭用 HAX1
最高ぬい速度	毎分1300針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より1年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間に内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
 1. 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 2. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 3. お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 4. お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
 5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

〒193-0941 東京都八王子市狭間町1463番地

お客様相談室 TEL.0120-026-557 (フリーダイヤル)
042-661-2600

受付 平日 9:00~12:00 13:00~17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <http://www.janome.co.jp>
問合せフォームをご利用ください。



798800183